

2025年度
(令和7年度)

授 業 概 要



日本体育大学医療専門学校

口腔健康学科

授 業 概 要

歯科衛生士専門課程の教育内容、授業科目及び単位数等
括弧内の数字は歯科衛生士養成所ガイドラインによる単位数を示している

分野別	教育内容	単位数	授業科目	授業 形態	1年		2年		3年		単位 数計	時間数 計	頁
					単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数			
基礎分野	科学的思考の基礎	2	生命科学	講義	2	30					2	30	1
	人間と生活	8	心理学	講義	2	30					2	30	2
			英語Ⅰ	講義	2	30					2	30	3
			英語Ⅱ(医学英語)	講義	2	30					2	30	4
			国語表現	講義	2	30					2	30	5
小計		10 (10)			10	150	0	0	0	0	10	150	
専門基礎分野	人体の構造と機能	6	解剖学	講義	2	30					2	30	6
			生理学	講義	2	30					2	30	7
			組織発生学(口腔組織発生学を含む)	講義	2	30					2	30	8
	歯・口腔の構造と機能	6	栄養学・生化学	講義	2	30					2	30	9
			口腔解剖学	講義	2	30					2	30	10
			口腔生理学	講義	2	30					2	30	11
	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	6	病理学(口腔病理学を含む)	講義	2	30					2	30	12
			微生物学	講義	2	30					2	30	13
			薬理学	講義	2	30					2	30	14
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	10	口腔衛生学Ⅰ	講義	2	30					2	30	15
			口腔衛生学Ⅱ(統計学を含む)	講義					2	30	2	30	16
			衛生行政・医療保険	講義					2	30	2	30	17
			公衆衛生学	講義	2	30					2	30	18
			社会福祉論	講義					2	30	2	30	19
小計		28 (22)			22	330	0	0	6	90	28	420	
専門分野	歯科衛生士概論	2	歯科衛生学総論	講義	2	30					2	30	20
	臨床歯科医学	18	歯科臨床概論	講義	2	30					2	30	21
			歯周病学	講義			2	30			2	30	22
			保存修復学・歯内療法学	講義			2	30			2	30	23
			歯科補綴学	講義			2	30			2	30	24
			高齢者歯科学	講義			2	30			2	30	25
			障害者歯科学	講義			2	30			2	30	26
			小児歯科学	講義			2	30			2	30	27
			歯科矯正学	講義			2	30			2	30	28
			口腔外科学	講義			2	30			2	30	29
	歯科予防処置論	10	歯科予防処置論Ⅰ	講義	2	30					2	30	30
			歯科予防処置論Ⅱ	実習	2	60					2	60	31
			歯科予防処置論Ⅲ	実習			2	60			2	60	32
			歯科予防処置論Ⅳ	実習			2	60			2	60	33
			歯科予防処置論Ⅴ	演習			2	30			2	30	34
	歯科保健指導論	14	歯科保健指導論Ⅰ	演習	4	60					4	60	35
			歯科保健指導論Ⅱ	講義			2	30			2	30	36
			歯科保健指導論Ⅲ	演習			4	60			4	60	37
			歯科保健指導論Ⅳ	実習					2	60	2	60	38
			歯科保健指導論Ⅴ(栄養指導を含む)	講義					2	30	2	30	39
	歯科診療補助論	10	歯科診療補助論Ⅰ	講義	2	30					2	30	40
			歯科診療補助論Ⅱ	講義	2	30					2	30	41
			歯科診療補助論Ⅲ	実習	2	60					2	60	42
			歯科診療補助論Ⅳ	実習			2	60			2	60	43
			歯科放射線学・歯科麻酔学	演習			2	30			2	30	44
	臨地実習(臨床実習を含む)	20	臨地実習Ⅰ	実習			9	405			9	405	45
			臨地実習Ⅱ	実習					11	495	11	495	46
小計		74 (54)			18	330	41	975	15	585	74	1,890	
選択必修分野	選択必修分野	14	総合歯科医学演習	演習					8	120	8	120	47
			介護技術	演習					2	30	2	30	48
			スポーツ科学	講義	2	30					2	30	49
			臨床検査	講義			2	30			2	30	50
小計		14 (7)	小計		2	30	2	30	10	150	14	210	
合計		126 (93)	合計		52	840	43	1005	31	825	126	2,670	

1	区分	基礎分野	形式	講義	前期・火曜日
授業科目名		生命科学	単位数		2
担当教員		吉田 裕輝	履修年次		口腔 1年次
【授業の概要・到達目標】					
科学的な思考・知識を身につけることは、歯科衛生士にとって歯科医療にたずさわる上で、必要不可欠な要素である。特に医療に関して言えば、人体の構造や機能を理解する上での基礎となる。生命活動について基本的な事項から、最近明らかとなってきた知見も併せて紹介していく。					
【授業計画】					
1	4/8	授業概要、人体を構成する要素 生命の単位			
2	4/15	細胞のはたらき 細胞小器官			
3	4/22	細胞のはたらき 膜の構造			
4	4/29	遺伝子発現からタンパク合成過程 (セントラルドグマ)			
5	5/13	物質の輸送(受動輸送と能動輸送)			
6	5/20	組織と器官 上皮組織、支持組織			
7	5/27	組織と器官 筋組織、筋収縮の分子機構			
8	6/3	小テスト、解答解説			
9	6/10	組織と器官 筋組織、神経組織			
10	6/17	糖質の種類とその化学構造			
11	6/24	脂質の種類とその化学構造			
12	7/1	アミノ酸とたんぱく質の種類とその化学構造			
13	7/8	核酸(DNA,RNA)と核酸関連物質の化学構造			
14	7/15	自己複製・細胞周期			
15	7/29	前期期末試験			
16	8/5	前期総合まとめ(期末試験解説含む)			
学習上の注意		復習に重点をおいて学習すること。私語は慎むこと。 携帯電話、スマートフォン等の使用を禁止する。			
評価方法		期末試験を90%、小テスト10%として評価する。			
教科書		参考書	最新歯科衛生士教本 生物学 医歯薬出版 最新歯科衛生士教本 化学 医歯薬出版高校 生物 基礎、生物の教科書や参考書		

2	区分	基礎分野	形式	講義	前期・火曜日
授業科目名		心理学	単位数		2
担当教員		鈴木 香保利	履修年次		口腔 1年次
【授業の概要・到達目標】 心理学の基礎を、心理検査やグループワーク、ロールプレイを通して体験し学習する。自己の理解を深め、他者を理解する方法を習得する。それによって歯科衛生士としての患者支援の方法を学ぶ。					
【授業計画】					
1	4/8	知覚・感覚(知覚成立の基礎・知覚の体制化・知覚の諸相)			
2	4/8	学習・記憶①(学習のプロセス・行動療法・観察学習)			
3	4/15	学習・記憶②(記憶のメカニズム・記憶の病理とゆがみ)			
4	4/22	動機づけ理論(動機づけの機能・動機づけの分類・欲求)			
5	4/29	感情とストレス(感情・フラストレーション・ストレス)			
6	5/13	パーソナリティ①(パーソナリティの記述・パーソナリティの調べ方)			
7	5/20	パーソナリティ②(パーソナリティの異常と障害)			
8	5/27	知能(知能とは・知能の測定・知的能力障害)			
9	6/3	思考(思考とは・問題解決・創造性)			
10	6/10	発達心理学①(発達とは・発達段階と発達課題・乳幼児から児童期の心理的発達)			
11	6/17	発達心理学②(青年期・成人期・高齢期)			
12	6/24	医療安全とノンテクニカルスキル			
13	7/1	心理的安全性・リーダーシップ			
14	7/8	カウンセリング・コミュニケーションスキル			
15	7/29	前期期末試験			
16	8/5	試験解説、心理学のあゆみと研究法			
学習上の注意		毎回復習をすること。講義中の私語、タブレット等を触ることは厳禁とします。			
評価方法		期末試験90%、提出物または小テスト10%			
教科書		歯科衛生学シリーズ「心理学」(医歯薬出版)	参考書	心理学辞典(有斐閣)、恐れのない組織(英治出版)	

3	区分	基礎分野	形式	講義	前期・金曜日
授業科目名		英語 I	単位数		2
担当教員		坂井 成美	履修年次		口腔 1年次
【授業の概要・到達目標】					
①歯科衛生士として頻繁に使う語句や表現を英語で表現することができる。 ②作文や発話等を通して自身の英語力を伸ばすことができる。 ③英語を使い、情報を得たり、自身の考えを発信することに興味を持つことができる。					
【授業計画】					
1	4/11	ガイダンス			
2	4/25	Unit1 Appointment			
3	5/2	Unit2 At the Reception Desk (1)			
4	5/9	Watch a Video :What Causes Cavities?			
5	5/16	Unit3 Before the Treatment (1)			
6	5/23	Unit4 At the Reception Desk (2)			
7	5/30	Vocabulary Building			
8	6/6	Reading : Current Medical English News (1)			
9	6/20	Unit5 Before the Treatment (2)			
10	6/27	Unit6 Taking an X-ray			
11	7/4	Watch a Video :How Did Teeth Evolve?			
12	7/11	Unit7 Dental Care			
13	7/18	Reading : Current Medical English News (2)			
14	7/25	単語テスト、英文フレーズ暗記テスト、英文和訳課題提出、前期のまとめ			
15	8/1	前期期末試験			
16	8/8	前期期末試験解答・解説、前期の振り返り			
学習上の注意		初回ガイダンスでグーグルクラスルームの使い方、音声ファイルのダウンロードの方法を説明し練習します。授業計画は進度により変更する場合がありますが、その際は事前にお知らせします。			
評価方法		すべての課題提出状況と小テスト結果40%、定期試験結果60%			
教科書		English for Dental Hygienists 歯の健康づくりをサポートする英語表現 萌文書林	参考書		

4	区分	基礎分野	形式	講義	後期・金曜日
授業科目名		英語Ⅱ(医学英語)	単位数		2
担当教員		坂井 成美	履修年次		口腔 1年次
【授業の概要・到達目標】					
①歯科衛生士として頻繁に使う語句や表現を英語で表現することができる。 ②作文や発話等を通して自身の英語力を伸ばすことができる。 ③英語を使い、情報を得たり、自身の考えを発信することに興味を持つことができる。					
【授業計画】					
1	9/26	前期の振り返り			
2	10/3	Unit8 How to Brush Your Teeth (1)			
3	10/10	Crossword Puzzle Vocabulary Building			
4	10/17	Unit8 How to Brush Your Teeth (2)			
5	10/24	Unit9 Smoking and Eating Habits (1)			
6	11/7	Unit9 Smoking and Eating Habits (2)			
7	11/14	Unit10 How to Prevent Gum Disease (1)			
8	11/21	Unit10 How to Prevent Gum Disease (2)			
9	11/28	Unit11 Dental Health of Infants			
10	12/5	Unit12 Dental Health Activities			
11	12/12	Unit13 At an Adult Daycare Center			
12	1/9	After Tooth Extratction			
13	1/16	Whitening			
14	1/23	Watch a Video : <i>I Don't Like the Dentist</i>			
15	1/30	後期期末試験			
16	2/6	後期期末試験解答・解説 後期のまとめ			
学習上の注意		授業計画は進度により変更する可能性もあります。 課題の配信、連絡事項はグーグルクラスルームを使用します。			
評価方法		すべての課題提出状況と小テスト結果40%、定期試験結果60%			
教科書		English for Dental Hygienists 萌文書林	参考書		

5	区分	基礎分野	形式	講義	前期・水曜日
授業科目名		国語表現	単位数		2
担当教員		関 明子	履修年次		口腔 1年次
【授業の概要・到達目標】					
表現する前に「考える」習慣をつける。特に文字となったものは後に残る。したがって、話すとき以上に書くときは慎重にならざるを得ない。そのため、基本的な「読む」「書く」「聴く」「話す」4つの能力のうち「書く」ことにやや大きい比重を置くつもりである。基礎をしっかりと身につけてほしい。 1. 誤読をしない力をつける。 2. 適切な資料を選択し、その内容を必要に応じて文章化できるようにする。 3. 誠実かつ正確に聞き取る。 4. 話す場合も書く場合も「話の流れ」を意識する。					
【授業計画】					
1	4/9	文(箇条書き)から文章へ			
2	4/16	敬語(尊敬語と謙譲語を中心に)			
3	4/23	プレゼンテーションとは			
4	4/30	プレゼンテーションのための基礎知識			
5	5/14	プレゼンテーションの実際と質疑応答(1)			
6	5/21	プレゼンテーションの実際と質疑応答(2)反省と推敲			
7	5/28	プレゼンテーションの実際と質疑応答(3)「語ること」と「書く」こと			
8	6/4	読解: 要点を意識する・要約する			
9	6/11	論述: 論理的に述べる			
10	6/18	論述: 客観性について考える・資料の探し方			
11	6/25	手紙文の基礎			
12	7/2	手紙文を書く			
13	7/9	ビジネスレター			
14	7/16	手紙文総復習			
15	7/30	前期期末試験			
16	8/6	前期末試験解説			
学習上の注意		授業は演習を中心に行うので、必ず筆記用具は持参すること。筆記用具はボールペンや万年筆がのぞましいが、濃く書ければ鉛筆・シャープペンシルも可。授業中の私語、スマホ、携帯電話の使用、飲食および、他学生の学習の迷惑になる行為は禁止する。ただし、授業の必要性からスマホによる検索は許可する場合もある。			
評価方法		出席率(遅刻率)と参加態度20%、授業中の課題10%、プレゼンテーション20%、期末試験50%			
教科書		なし。その都度プリントを配布する。	参考書	授業中、適宜紹介する。	

6	区分	専門基礎分野	形式	講義	前期・月曜日
授業科目名		解剖学	単位数		2
担当教員		湯山 徳行	履修年次		口腔 1年次
【授業の概要・到達目標】					
解剖学は医学・歯学の基礎となる重要な学問である。歯科衛生士として医療にたずさわる上で、人体を構成する基本的正常構造に関する知識を理解する。生理学と連携して、構造と機能を一体のものとして学習する。					
【授業計画】					
1	4/7	細胞の構造			
2	4/14	消化・吸収(消化器の概要)			
3	4/21	消化・吸収(消化器の構造と種類)			
4	4/28	血液と循環(血液の組成・血管の構造・心臓の構造)			
5	5/12	循環(動脈系・静脈系・リンパ系)			
6	5/19	神経系(基本構造・中枢神経系の構造)			
7	5/26	神経系(脳脊髄膜・脳の血管・末梢神経系)			
8	6/2	神経系(求心性・遠心性伝導路)			
9	6/9	筋と運動(筋の微細構造)			
10	6/16	感覚(皮膚・視覚器・聴覚器などの構造)			
11	6/23	呼吸(肺や気道の構造)			
12	6/30	腎機能と排尿(泌尿器系の構造)			
13	7/7	内分泌(内分泌腺の構造と種類)			
14	7/14	生殖(男女の生殖器の構造/性周期・受精と妊娠・分娩)			
15	7/28	前期期末試験			
16	8/4	フィードバック			
学習上の注意		人体の構造を学習するに当たっては、生物学の知識が必要なので、生物学を復習しておくこと。各講義の復習として配布プリントやノートを整理し、教科書を確認すること。			
評価方法		期末試験、小テスト、授業態度による総合評価			
教科書		歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 解剖学・組織発生学・生理学(医歯薬出版)	参考書		

7	区分	専門基礎分野	形式	講義	前期・水曜日
授業科目名		生理学	単位数		2
担当教員		湯山 徳行	履修年次		口腔 1年次
【授業の概要・到達目標】					
人体は細胞から構成され、組織、器官、器官系とシステムを構築して、人体の恒常性を保っている。ここでは、歯科衛生士として必要な構造と機能を有機的に学び、全身の正常機能を理解し、歯科医療と全身の関係を学習し、必要な基礎的知識を理解する。					
【授業計画】					
1	4/9	細胞の基本的生理機能			
2	4/16	消化・吸収(腹部消化管の機能)			
3	4/23	消化・吸収(膵臓・肝臓・胆嚢の機能)			
4	4/30	循環(血液の機能・心臓の機能)			
5	5/14	循環(血管の機能・血圧の調節)			
6	5/21	神経系(興奮と伝導・中枢神経系の機能)			
7	5/28	神経系(脳の高次機能・自律神経系の機能)			
8	6/4	神経系(反射・随意運動)			
9	6/11	筋の機能と運動(筋収縮機序・運動単位)			
10	6/18	感覚(性質と種類・体性感覚・視覚・聴覚・平衡覚)			
11	6/25	呼吸(換気・肺気量・ガス交換・呼吸の調節)			
12	7/2	泌尿器(腎臓の機能・尿の生成・体液調節・酸塩基調節)			
13	7/9	内分泌(ホルモンの作用機序・分泌調節)			
14	7/16	体温調節(産生と放散・発熱)			
15	7/30	前期期末試験			
16	8/6	フィードバック			
学習上の注意		人体の機能を学習するに当たっては、生物学の知識が必要なので、生物学を復習しておくこと。生体の機能は、からだの構造を理解していることが不可欠なので、解剖学・組織学等の知識と一緒に学習すること。各講義の復習として配布プリントやノートを整理し、教科書を確認すること。			
評価方法		期末試験、小テスト、授業態度による総合評価			
教科書		歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学	参考書		

8	区分	専門基礎分野	形式	講義	前期・月曜日
授業科目名		組織発生学(口腔組織発生学を含む)	単位数		2
担当教員		長谷川 博雅	履修年次		口腔 1年次
【授業の概要・到達目標】					
口腔疾患を理解するために必要な人体の発生、歯を含む口腔組織や全身組織の構造、および医療人として必要なバイオエシックスについて概説する。口腔疾患の予防や治療法を習得するためには、病態の理解が必須である。そこで、生命の誕生から細胞の発生、口腔や全身諸臓器の発生を理解する。次いで、人体を構成する細胞の基本構造を学び、さらに口腔や全身諸臓器がどのような細胞・組織で構築されているかを理解する。またプロフェッショナルケアの担い手として歯科医療行為を行うための倫理基盤を理解する。					
【授業計画】					
1	4/7	歯の発生			
2	4/7	歯と歯周組織の組織構造			
3	4/21	歯の形態と名称			
4	4/21	永久歯の形態的特徴			
5	5/12	乳歯の形態的特徴			
6	5/12	細胞の基本構造と発生			
7	5/26	上皮組織の構造			
8	5/26	間葉組織の構造			
9	6/9	顎・顔面・顎骨の発生と組織構造			
10	6/9	消化器系の発生と組織構造			
11	6/23	舌、唾液腺の発生と組織構造			
12	6/23	循環器・呼吸器・泌尿器・生殖器の組織構造			
13	7/7	生命倫理の誕生と背景			
14	7/7	医療人の生命倫理			
15	7/28	前期期末試験			
16	8/4	試験の解説とまとめ			
学習上の注意		組織学は解剖学や生理学と密接な関係にあり、互いに不可分な関係である。人体を理解するために、これらの知識を絶えず融合させるような自主学習が望まれる。			
評価方法		期末試験、授業中の受講態度などの総合評価			
教科書		歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」「歯科医療倫理学」(医歯薬出版)	参考書	ムーア人体発生学(医歯薬出版) 人体組織図譜(南江堂)	

9	区分	専門基礎分野	形式	講義	前期・木曜日 金曜日
授業科目名		栄養学・生化学	単位数		2
担当教員		富田 美穂子・竹内 由里	履修年次		口腔 1年次
【授業の概要・到達目標】					
【概要】食物として摂取した栄養素をどのように消化・吸収し、どのように活用しているかを学ぶ。身体を構成している物質の分子レベルまでを理解し、体内の動的なエネルギー代謝や物質代謝、遺伝子の関与、細胞内の情報伝達の働きを学ぶ。					
【到達目標】栄養の基礎知識と栄養素の働きを理解する。口腔組織に関わる生化学的知識を養う。					
＊管理栄養士として病院で栄養指導をしている経験を持つ担当教員による授業（9時間）					
【授業計画】					
1	4/17	生体の構成要素	【富田】		
2	4/24	糖質・脂質・蛋白質の役割	【富田】		
3	5/2	自分の食事を評価する	【竹内】		
4	5/2	バランスガイドを参考に望ましい食事を考える	【竹内】		
5	5/23	成長期の食生活の課題を考える	【竹内】		
6	5/23	成人期の食生活の課題を考える	【竹内】		
7	6/6	摂食機能の低下に対応した食事を考える	【竹内】		
8	6/6	高齢期の食生活の課題を考える	【竹内】		
9	6/12	糖質・脂質・蛋白質の代謝	【富田】		
10	6/19	栄養素の消化吸收	【富田】		
11	6/26	歯と歯周組織の生化学	【富田】		
12	7/3	唾液の生化学	【富田】		
13	7/10	唾液の生化学	【富田】		
14	7/17	プラークの生化学	【富田】		
15	7/31	前期期末試験			
16	8/7	まとめ	【富田】		
学習上の注意		歯科栄養学は、健康を維持するために必要な食生活を学ぶ学問であるため、各授業の配布プリントを整理し、教科書と合わせて必ず復習をすること。			
評価方法		期末試験(80%)・提出物（20%）			
教科書		歯科衛生学シリーズ 栄養学(医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 生化学(医歯薬出版)	参考書		

10	区分	専門基礎分野	形式	講義	前期・金曜日
授業科目名		口腔解剖学	単位数		2
担当教員		奥村 雅代	履修年次		口腔 1年次
【授業の概要・到達目標】					
歯科医療に従事するものとして、歯科医学の基礎として、歯と口腔の構造と機能を学ぶ。					
1. 頭頸部と口腔の構造、それを構成する骨、筋、脈管について理解する。					
2. 頭頸部と口腔の運動と機能について理解する。					
【授業計画】					
1	4/25	口腔の構造1(口腔の範囲、口蓋、舌、舌下部)			
2	4/25	口腔の構造2(鼻腔、咽頭、頸部)			
3	5/9	頭蓋骨(眼窩、頭蓋腔、翼口蓋窩)			
4	5/9	口腔を構成する骨(上顎骨、下顎骨)			
5	5/16	頭頸部の筋(咀嚼筋、舌骨上筋、舌骨下筋、表情筋)			
6	5/16	頭頸部の脈管(動脈、静脈、リンパ管)			
7	5/30	神経組織(神経概要、三叉神経)			
8	5/30	頭頸部の神経(顔面神経、舌咽神経、迷走神経、舌下神経)			
9	6/20	顎関節(構造、顎運動)			
10	6/20	顎反射			
11	7/4	摂食と咀嚼(下顎位、咀嚼運動、咀嚼制御)			
12	7/4	嚥下と嘔吐			
13	7/18	発声(声の生成、言語野)と唾液腺(構造、成分、調節)			
14	7/18	感覚(知覚、痛覚、味覚)			
15	8/1	前期期末試験			
16	8/8	前期期末試験の解説			
学習上の注意		教科書および配布するプリントを持参すること。			
評価方法		授業態度(10%)、定期試験(90%)により評価する。			
教科書		歯科衛生学シリーズ『歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』(医歯薬出版)	参考書		

11	区分	専門基礎分野	形式	講義	後期・木曜日
授業科目名		口腔生理学	単位数		2
担当教員		湯山 徳行	履修年次		口腔 1年次
【授業の概要・到達目標】 口腔機能は、呼吸器、消化器、感覚器、発声器の役割をもち、感覚系、運動系、神経系を含めた複雑なネットワークによって構成されている。口腔機能は単に食物を摂取するだけでなく、生体の消化・吸収の入り口であり、発声に重要な役割を果たしており、多様性、統合性の機能を発揮している。また、口腔機能は生きる楽しみと深く結びついており、「生活の質」を高める機能を持っている。歯科衛生士として歯科医療を理解する上での知識だけでなく、患者さんに口腔領域の専門家として説明できるレベルまで知識を理解してもらいたい。					
【授業計画】					
1	9/25	歯と口腔の感覚			
2	10/2	口腔粘膜の感覚			
3	10/16	味覚と嗅覚			
4	10/23	咬合 下顎運動・下顎位			
5	10/30	顎反射			
6	11/6	咀嚼			
7	11/13	吸啜			
8	11/20	嚥下			
9	11/27	嘔吐			
10	12/4	唾液の分泌機構			
11	12/11	唾液の性状・成分			
12	1/8	唾液の機能			
13	1/15	発声			
14	1/22	構音・言語中枢			
15	1/29	後期期末試験			
16	2/5	フィードバック			
学習上の注意		口腔の機能は、密接に人体の機能と関係しているので、前期の「人体機能学」を復習しておくこと。各講義の復習として配布プリントやノートを整理し、教科書を確認すること。			
評価方法		期末試験、小テスト、授業態度の総合評価			
教科書		歯科衛生学教本 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖・口腔組織発生学・口腔生理学	参考書		

12	区分	専門基礎分野	形式	講義	後期・月曜日
授業科目名		病理学(口腔病理学を含む)	単位数		2
担当教員		長谷川 博雅	履修年次		口腔 1年次
【授業の概要・到達目標】 口腔疾患を理解するために必要な一般病理学総論を先ず概説する。次いで、総論基礎的知識に基づいて、各論である口腔疾患の原因、成立機序、病態、予後や転帰を概説する。このなかで必要に応じて解剖学、組織学、生理学などの基礎的知識の復習を織り交ぜる。さらに口腔疾患と全身状態との関連性についても紹介していく。 本授業を通して、口腔疾患を理解するための病理学的基礎知識を習得し、さらに口腔疾患の予防法や治療法を理解するうえで不可欠な口腔疾患特有の病態を理解し、口腔と全身を相互に関連付けた知識を統合し、プロフェッショナルケアの担い手として必要な総合的な病理学的知識を習得する。					
【授業計画】					
1	9/22	病理学概論・病因、遺伝性疾患			
2	9/22	循環障害			
3	10/6	代謝障害と退行性病変			
4	10/6	増殖と修復			
5	10/27	炎症と免疫異常			
6	10/27	腫瘍総論			
7	11/10	歯の発育異常歯と損傷			
8	11/10	歯の着色・付着物、う蝕、象牙質歯髄複合体の病変			
9	11/17	歯周組織の疾患			
10	11/17	口腔粘膜病変			
11	12/1	口腔の嚢胞と腫瘍			
12	12/1	口腔がん			
13	12/15	顎骨の病変、唾液腺の病変			
14	12/15	口腔領域の奇形と加齢変化			
15	2/2	後期期末試験			
16	2/9	試験の解説とまとめ			
学習上の注意		病理学は人体の正常構造や機能の逸脱であるので、解剖学、組織学、生理学などの基礎知識のうえに成立する学問であるので、各自の理解度に応じて基礎知識の復習に務めること。			
評価方法		期末試験、授業態度等の総合評価			
教科書		歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学」(医歯薬出版)	参考書	病理学総論にもとづく口腔病理学 第3版(永末書店)	

13	区分	専門基礎分野	形式	講義	後期・火曜日
授業科目名		微生物学	単位数		2
担当教員		小山 祐樹	履修年次		口腔 1年次
【授業の概要・到達目標】					
微生物がヒトに感染することで生じた病気を感染症といい、感染症が生じないようにする生体の防御能を免疫という。本科目では、病気と病原微生物の関係、および免疫機能について理解する。 また、口腔の微生物が起こす感染症について学修する。					
【授業計画】					
1	9/30	歯科衛生士業務での微生物学の必要性、微生物学の歴史について説明できる。 感染症について説明できる。			
2	10/7	微生物の分類について説明できる。 細菌、真菌、ウイルスの特徴について説明できる			
3	10/14	細菌の代謝、増殖条件、病原因子について説明できる。			
4	10/21	主な感染症と病原微生物について説明できる。(グラム陽性菌)			
5	10/28	主な感染症と病原微生物について説明できる。(グラム陰性菌)			
6	11/4	ウイルスの構造、増殖の仕方、特徴について説明できる。			
7	11/11	主な感染症と病原微生物について説明できる。(ウイルス、真菌)			
8	11/25	免疫の概念について説明できる。 自然免疫について説明できる。			
9	12/2	獲得免疫について説明できる。(体液性免疫、細胞性免疫)			
10	12/9	アレルギー、自己免疫疾患について説明できる。			
11	12/16	口腔環境と口腔常在微生物について説明できる。 デンタルプラークの形成機序について説明できる。			
12	1/13	う蝕、歯周病の成り立ち、原因細菌について説明できる。			
13	1/20	化学療法および滅菌、消毒について説明できる。			
14	1/27	まとめ			
15	2/3	後期期末試験			
16	2/10	解答解説			
学習上の注意		微生物は非常に沢山の種類があり、全てを学習することは難しい。しかし、歯科医学上必要なもの、さらには国家試験に出題される微生物の種類は限られているため、それらについては名前、特徴をしっかり学習し、今後の臨床的分野の理解を深められるようにする。			
評価方法		試験(90%)、小テストを含む授業態度等(10%)			
教科書		歯科衛生学シリーズ「微生物学」(医歯薬出版)	参考書	講義時に資料を配布	

14	区分	専門基礎分野	形式	講義	後期・金曜日
授業科目名		薬理学	単位数		2
担当教員		富田 美穂子	履修年次		口腔 1年次
【授業の概要・到達目標】					
【概要】薬物は薬理作用をもつ化学物質であり、疾患の治療や予防を目的をして適応される。薬物の性質、薬物による生体への影響を理解し、疾患に対する薬物の作用機序や他の組織への副作用を学ぶ。超高齢社会を迎えた現在、高血圧等の全身疾患に対する薬物を服用している患者が多いため、それらの薬剤の影響と対応を学ぶ。					
【到達目標】口腔疾患に対する薬剤の種類や作用機序を学ぶとともに、全身疾患に対する内服薬が歯科治療へ与える影響を理解し、歯科衛生士として指導ができる知識を習得する。					
【授業計画】					
1	10/3	薬物の作用・動態			
2	10/3	薬物の種類と特徴			
3	10/10	薬物の副作用・取り扱い			
4	10/10	ビタミンとホルモン			
5	10/24	神経系に作用する薬物			
6	10/24	循環器系に作用する薬物			
7	11/7	消化器系に作用する薬			
8	11/7	確認テスト/悪性腫瘍と薬			
9	11/21	抗炎症薬			
10	11/21	痛みと薬			
11	11/28	麻酔薬			
12	12/12	抗感染症薬・消毒薬			
13	1/8	う蝕予防薬・歯内療法薬			
14	1/23	口腔粘膜疾患の薬			
15	1/30	後期期末試験			
16	2/6	後期試験の解説とまとめ			
学習上の注意		薬理学は、疾患予防や治療を目的とした薬剤の作用機序を学ぶ重要な学問であるため、各授業の配布プリントを整理し、教科書と合わせて必ず復習をすること。			
評価方法		期末試験(100%)			
教科書		歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学 第2版」(医歯薬出版)	参考書		

15	区分	専門基礎分野	形式	講義	後期・金曜日
授業科目名		口腔衛生学Ⅰ	単位数		2
担当教員		荒川 浩久	履修年次		口腔 1年次
【授業の概要・到達目標】					
歯・口腔の健康に関わる社会の仕組みの概要と歯科疾患の原因と予防に関する理論と実際を教授するので、それらを身につけ、正しい科学を伝え行動変容を起こすことができる技術をもって、患者教育と指導、ならびに歯科公衆衛生活動を実践できるようにする。					
【授業計画】					
1	9/26	総論：口腔と健康、歯・口腔の発育と変化、口腔環境			p1～17
2	9/26	歯・口腔の不潔：歯の付着物と沈着物、舌苔			p17～25
3	9/26	口腔清掃、口腔清掃用具			p27～33
4	10/17	歯磨剤、洗口剤、口腔保湿剤			p33～37
5	10/17	ブラッシング法と特徴、ブラッシングの為害作用、歯垢染色剤			p38～42
6	10/17	う蝕の予防1：う蝕発生要因と機序、初期う蝕と再石灰化、う蝕のリスク評価			p43～49
7	11/14	中間試験とフィードバック			
8	11/14	う蝕の予防2：う蝕活動性試験、う蝕の一次・二次・三次予防			p50～54
9	11/14	フッ化物によるう蝕予防1：フッ化物の分布、フッ化物の摂取と代謝			p55～59
10	12/5	フッ化物によるう蝕予防2：フッ化物の毒性、う蝕予防機序			p59～63
11	12/5	フッ化物によるう蝕予防3：フッ化物応用の歴史と全身応用			p63～67
12	12/5	フッ化物によるう蝕予防4：フッ化物の局所応用、予防効果			p67～72
13	1/16	歯周病の予防：分類、発生と免疫応答、第一次・二次・三次予防			p73～86
14	1/16	その他の疾患・異常の予防：不正咬合、口臭、歯の損耗・破折、顎関節症、癌			p87～98
15	1/30	後期期末試験			
16	1/30	後期期末試験の解説と振り返り			
学習上の注意		あらかじめシラバスにある授業予定の教科書部分に目を通して、どのような内容かを把握したうえで授業に臨み、終了後は課題に取り組み、できるだけ早い時期に渡された授業プリントと課題の正答に沿って学習目標を達成できるように復習する。			
評価方法		中間試験45%、期末試験45%、課題実行度10%にて評価する			
教科書		歯科衛生士テキスト口腔衛生学 第4版 (学建書院)	参考書	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学(医歯薬出版)	

16	区分	専門基礎分野		形式	講義	後期・火曜日
授業科目名		口腔衛生学Ⅱ（統計学を含む）		単位数		2
担当教員		富田 美穂子		履修年次		口腔 3年次
【授業の概要・到達目標】						
【概要】口腔領域の疾患予防とそれに関わる人間と社会の仕組みを学習する。行政が実施する地域における歯科疾患の予防法や保健にかかわるシステムを理解し、それに必要な情報収集、診断、活動計画の立案、成果の評価法を習得する。						
【到達目標】保健に関連する社会の仕組みを理解するとともに、公衆衛生・地域歯科保健活動の疫学調査で必要な統計方法を理解し説明できる。						
【授業計画】						
1	10/7	統計調査方法①				
2	10/14	統計調査方法②				
3	10/14	統計調査方法③				
4	10/21	統計調査方法④				
5	10/21	統計調査方法⑤				
6	10/28	統計調査方法⑥				
7	11/4	歯科疾患の指標①				
8	11/11	歯科疾患の指標②				
9	11/11	歯科疾患の指標③				
10	11/18	地域歯科保健活動①				
11	11/18	地域歯科保健活動②				
12	11/25	成人・高齢者・要介護者の歯科保健				
13	11/25	母子・学校・産業歯科保健				
14	12/2	災害時の医療				
15	12/4	後期期末試験				
16	12/10	後期試験の解説とまとめ				
学習上の注意		疫学を実施する上で必要な統計の基礎や手法を理解し、復習や演習を重ねる。授業時には、理解の確認のために適宜小テストを行う。				
評価方法		期末試験（100%）				
教科書		歯科衛生学シリーズ 保健情報統計学 （医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 保健生態学（医歯薬出版）		参考書		

17	区分	専門基礎分野	形式	講義	後期・水曜日
授業科目名		衛生行政・医療保険	単位数		2
担当教員		富田 美穂子	履修年次		口腔 3年次
【授業の概要・到達目標】					
【概要】日本の保健・医療・福祉制度と医事法制を理解し、歯科衛生業務との関連を学習する。歯科衛生士法を中心に法律の目的や定義を理解し、業務範囲を確認する。また医療はチーム医療により実施されていることを頭に置き、他の職種との相互関係を築くために必要な法規、医療法、医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法、社会福祉関連の法律を学ぶ。医療保険の仕組みを学び、それに必要な略語を確認する。					
【到達目標】国民の健康増進と適切な歯科医療を提供するために必要な法律や社会保障を理解する。					
* 歯科医師として、歯科医療に携わり、レセプトにも通じている担当教員による授業					
【授業計画】					
1	10/8	歯科衛生士と法律①			
2	10/8	歯科衛生士と法律②			
3	10/15	歯科医師法、歯科技工士法			
4	10/15	医療法①			
5	10/22	医療法②			
6	10/22	医療関係職種と法律			
7	10/29	社会保障制度			
8	10/29	介護保険法・老人福祉法			
9	11/5	介護保険制度(概要と仕組み)			
10	11/5	介護保険制度(地域支援事業・高齢者の福祉)			
11	11/12	地域保健・医療制度			
12	11/12	医療保険と算定の仕組み			
13	11/19	医療保険と算定の仕組み			
14	11/19	医療保険と算定の仕組み			
15	12/4	後期期末試験			
16	12/10	後期試験の解説と授業のまとめ			
学習上の注意		法律の名称やその内容は、医療人の心構えとしての基本であるため、教科書やプリントを確認しながら自分のノートを作成して確実に覚えること。			
評価方法		期末試験(100%)			
教科書		・歯科衛生学シリーズ「保健・医療・福祉の制度」(医歯薬出版) ・歯科診療報酬入門(医歯薬出版)	参考書		

18	区分	専門基礎分野	形式	講義	前期・水曜日
授業科目名		公衆衛生学	単位数		2
担当教員		飯田 英代	履修年次		口腔 1年次
【授業の概要・到達目標】					
公衆とは社会一般の人々、衛生とは体を清潔にして生命と生活を守ることを意味する。 公衆衛生学では、地域の生活者の健康を維持・増進し、病気を予防するために必要な基礎知識を学ぶ。 歯科衛生士として必要な公衆衛生学の基礎知識を理解し、公衆衛生の向上、増進に貢献する役割がある。					
【授業計画】					
1	4/9	公衆衛生学の概要 健康の定義 予防の考え方			
2	4/16	生活習慣と健康、長寿 健康づくり運動			
3	4/23	人口静態統計			
4	4/30	人口動態統計			
5	5/14	地球環境と健康、空気と健康			
6	5/21	水質環境と健康			
7	5/28	温熱環境、大気、放射線と健康			
8	6/4	廃棄物処理			
9	6/11	感染症の成立要件・発生動向 院内感染予防			
10	6/18	生活習慣病のリスク要因と予防			
11	6/25	食中毒と予防、食品の安全			
12	7/2	地域保健の仕組みと活動			
13	7/9	母子保健と活動			
14	7/16	精神保健			
15	7/30	前期期末試験			
16	8/6	前期期末試験の解説とまとめ			
学習上の注意		授業内容のプリントを配布するので、授業中に解説した事項を書き込み、完成させ理解すること			
評価方法		期末試験(90%) 授業への参加度(10%)			
教科書		医療スタッフのための衛生学エッセンス 保健生態学/医歯薬出版	参考書		

19	区分	専門基礎分野		形式	講義	前期・木曜日
授業科目名		社会福祉論		単位数		2
担当教員		大滝 周		履修年次		口腔 3年次
【授業の概要・到達目標】 社会福祉とは、人間の権利として誰もが有する自己実現 (well-being) を社会的に支援することである。現代は、急速に進む少子・高齢化に伴い、さまざまな問題を有している。将来、歯科衛生士として、病院や地域で活動する際、それらの問題に適切に対処していくためには、医療分野での知識だけではなく福祉も含めた統合視点が求められている。 授業では、社会福祉の歴史、理念、目的および現代社会における社会福祉に関する制度、現状について学習する。						
【授業計画】						
1	4/10	SDGsとは				
2	4/10	社会福祉／社会保障制度とは				
3	4/24	社会福祉／社会保障制度を考える②				
4	4/24	SDGsを考える②				
5	5/15	社会保険:医療保険とは				
6	5/15	社会保険:年金保険とは				
7	5/22	社会保険:雇用保険、労働者災害補償保険とは				
8	5/22	社会保険:介護保険とは				
9	6/5	公的扶助:生活保護とは				
10	6/5	社会福祉の基本とは				
11	6/19	社会福祉:障害者福祉とは				
12	6/19	社会福祉:高齢者福祉とは				
13	7/3	社会福祉:子ども福祉とは				
14	7/3	社会福祉:子ども福祉を考える				
15	7/31	前期期末試験				
16	8/7	まとめ				
学習上の注意		本授業については、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを含めた形式で実施する。 主体的に授業に臨みましょう! (授業の進捗状況に応じて、プレゼンテーション準備のために、授業時間を自宅での準備する時間に充てる場合がある)				
評価方法		評価は、①前期期末試験(本試験)(60%)、②小テスト、グループワーク・プレゼンテーション・指示された課題および授業態度(40%)の合計点とする。 再試験あるいは追試験の②の評価は、本試験で使用したものを採用する。 ★ 評価については、初回授業で詳細を説明する。				
教科書		コメディカルのための社会福祉概論 第5版		参考書		

20	区分	専門分野	形式	講義	前期・火曜日
授業科目名		歯科衛生学総論	単位数		2
担当教員		小川 磨美	履修年次		口腔1年次
【授業の概要・到達目標】					
歯科衛生業務を実践して人びとの健康づくりを支援するために、保健医療人としての基本的態度を理解し、多様な科目において知識・技術を習得する態度および論理的思考法の基礎を習得する。					
【到達目標】					
1) 医の倫理および歯科衛生と倫理について説明できる 2) 予防の概念を説明できる 3) クリティカル・シンキングの意義を説明できる 4) 歯科衛生過程の構成要素を説明できる 5) 歯科衛生業務記録を意義を説明できる 6) インフォームド・コンセントにおける患者・家族と医療者の権利と義務を説明できる * 歯科医院で臨床経験をもつ教員による授業					
【授業計画】					
1	4/8	歯科衛生学①			
2	4/15	歯科衛生学②			
3	4/22	歯科衛生の歴史①			
4	4/29	歯科衛生の歴史②			
5	5/13	歯科衛生活動のための理論①			
6	5/20	歯科衛生活動のための理論②			
7	5/27	歯科衛生過程①			
8	6/3	歯科衛生過程②			
9	6/10	歯科衛生士法と歯科衛生業務①			
10	6/17	歯科衛生士法と歯科衛生業務②			
11	6/24	歯科衛生士と医療倫理①			
12	7/1	歯科衛生士と医療倫理②			
13	7/8	歯科衛生士の活動と組織①			
14	7/15	歯科衛生士の活動と組織②			
15	7/29	前期期末試験			
16	8/5	総まとめ			
学習上の注意		・授業中の電子媒体(スマホ・タブレット・ウェアラブル端末)の使用は教員の許可がない限り、原則禁止とする。 ・予習してから授業に臨み、授業後は復習を行うこと。			
評価方法		本試験90% 提出物の状況.授業態度10%			
教科書		歯科衛生学シリーズ「歯科衛生学総論」 全国歯科衛生教育協議会監修 医歯薬出版株式会社	参考書		

21	区分	専門分野	形式	講義	後期・木曜日
授業科目名		歯科臨床概論	単位数		2
担当教員		廣川 晃司	履修年次		口腔 1年次
【授業の概要・到達目標】					
医学的に健康とインフォームドコンセントとは何かを学び、歯科医療の概要として歯と口腔組織について理解して歯科医学の臨床分野として歯科保存療法 補綴治療 小児歯科治療 歯科矯正治療 口腔外科治療 歯科放射線治療の各分野の違いを把握する。歯科臨床専門分野を理解して 歯科診療の流れと歯科衛生士業務の関連を理解する。診療するうえで必要となる、滅菌消毒について理解する。 * 歯科医師として歯科診療所、大学病院で歯科診療に従事していた経験をもつ担当教員による授業					
【授業計画】					
1	9/25	口腔内組織の構造と歯と歯周組織について			
2	10/2	健康と医学についてインフォームドコンセントとは何か			
3	10/16	歯科医療と歯科衛生士の主要業務			
4	10/23	歯科医療の特異性について、歯科疾患の概要			
5	10/30	歯科医療の患者対応と注意点			
6	11/6	歯科診療の流れ問診、診査、治療			
7	11/13	歯科疾患診査 治療の概念 救急処置 訪問診療について			
8	11/20	保健医療機関での業務			
9	11/27	歯科保存治療の歯冠修復と歯内療法			
10	12/4	歯科保存治療の歯周治療			
11	12/11	歯科補綴治療 義歯 クラウン ブリッジ			
12	1/8	小児歯科治療 矯正歯科治療			
13	1/15	口腔外科治療 歯科放射線診断			
14	1/22	歯科治療の消毒と滅菌			
15	1/29	後期期末試験			
16	2/5	試験解説・振り返り			
学習上の注意		学生の多くは歯科医学を学んでいないので 歯科医学、歯科臨床への入門となる。			
評価方法		期末試験100%			
教科書		歯科衛生士ための歯科臨床概論(第3版) 医歯薬出版	参考書		

22	区分	専門分野	形式	講義	前期・火曜日
授業科目名		歯周病学	単位数		2
担当教員		富田 そら	履修年次		口腔 2年次
【授業の概要・到達目標】 歯周組織の状態,病態や歯周病の治療法,予防法について学習し、歯科医師との共同作業として歯周治療を実践できる歯科衛生士になるために理解を深める。①歯周組織の構造 ②歯周病の原因,リスクファクター ③歯周疾患の分類 ④歯周病治療,予防法 ⑤歯周検査法の種類,方法 ⑥歯周基本治療 ⑦再評価,メンテナンス,SPT を学び、説明や実施できるよう学ぶ ＊ 歯科衛生士として臨床経験をもつ教員による授業					
【授業計画】					
1	4/8	歯と歯周組織の構造と機能			
2	4/15	歯周疾患の分類と特徴			
3	4/22	歯周疾患の原因			
4	4/29	歯周基本治療について①			
5	5/13	歯周基本治療について②			
6	5/20	歯周基本治療について③			
7	5/27	歯周基本治療について④			
8	6/3	歯周外科療法①			
9	6/10	歯周外科療法②			
10	6/17	歯周外科療法③			
11	6/24	歯周外科療法④			
12	7/1	口腔機能回復治療			
13	7/8	メンテナンスとSPT			
14	7/15	ペリオドンタルメディシン			
15	7/29	前期期末試験			
16	8/5	試験の解答,解説			
学習上の注意		歯周疾患の原因,治療法,予防について学習する。1年次含め、歯周疾患に関わる内容を復習すること。			
評価方法		期末試験(90%)、小テスト、授業態度(10%)			
教科書		歯科衛生学シリーズ 歯周病学(全国歯科衛生士教育協議会監修)	参考書	臨床歯周病学 第2版(医師薬出版)	

23	区分	専門分野	形式	講義	前期・木曜日
授業科目名		保存修復学・歯内療法学	単位数		2
担当教員		廣川 晃司	履修年次		口腔 2年次
【授業の概要・到達目標】					
【概要】う蝕と他の硬組織疾患、およびこれらに継発して発症する歯髄と根尖歯周組織の疾患の種類と病態、検査法、歯の切削法、修復法、根管治療法、ならびに治療に必要な前準備等の総括的事項について理解・修得する。					
【到達目標】①う蝕などの硬組織疾患の種類、診査法およびリスクファクターについて説明できる。②う蝕・根管治療の準備について理解し、説明できる。③修復・根管治療法の種類と特徴およびメンテナンスを説明できる。④治療器具を説明できる。⑤根尖性歯周炎の診断と治療および必要な器具を説明できる。					
* 歯科医師として大学病院で歯科治療に従事していた経験を持つ担当教員による授業。					
【授業計画】					
1	4/10	修復学の概要を理解し、歯の硬組織疾患の基礎、診査法と臨床応用を説明できる。			
2	4/17	う蝕進行と再石灰化を説明できる。切削器具を説明できる。窩洞を説明できる。			
3	4/24	グラスアイオノマーセメント修復法の基礎と臨床を学び、特徴と治療上の注意点を説明できる。			
4	5/1	コンポジットレジン修復法についてその硬化(重合)メカニズムを説明できる。			
5	5/15	接着性コンポジットレジン修復法の接着機構について学び、治療上の注意点を説明できる。			
6	5/22	接着性コンポジットレジン修復法の操作手順、補助法を学び、治療上の注意点を説明できる。			
7	5/29	インレー修復法の特徴について学び、コンポジットレジン修復法との違いを説明できる。			
8	6/5	歯内療法学の意義と目的を理解し、歯髄の構造とその機能について説明できる。			
9	6/12	種々な歯髄疾患の臨床的な特徴を学習し、それぞれの臨床的な違いについて説明できる。			
10	6/19	歯髄疾患に対する治療法を学び、その意義と必要な器具を説明できる。			
11	6/26	抜髄法を学び、その意義と必要な器具を説明できる。			
12	7/3	根尖性歯周炎の分類を学び、臨床的な特徴と違いを説明できる。			
13	7/10	根尖性歯周炎の治療法を学び、その意義と治療に必要な器具について説明できる。			
14	7/17	振り返り、症例検討			
15	7/31	前期期末試験			
16	8/7	前期期末試験の解説・振り返り			
学習上の注意		主にう蝕治療(修復)、および歯髄疾患と根尖性歯周炎(歯内療法)の治療に必要な知識、手順、手技を学習し、治療現場で歯科衛生士としての業務を遂行できる能力を修得する。			
評価方法		期末試験100%			
教科書		歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法(医歯薬出版)	参考書	保存修復学 第7版 医歯薬出版 歯内治療学 第5版 医歯薬出版	

24	区分	専門分野		形式	講義	前期・木曜日
授業科目名		歯科補綴学		単位数		2
担当教員		中山 和嘉子		履修年次		口腔 2年次
【授業の概要・到達目標】 歯科補綴学とは、う蝕症、歯周病、外傷、などにより、歯質、咬合が崩壊したものを補う治療ための学問である。その方法は、コンポジットレジン充填などの限局的なものから、クラウン・ブリッジ、全部床義歯、部分床義歯、インプラントなど、失われたものを補うことで、「人々が噛めるようになる」治療を行う科目である。補綴の力学関係と、口腔内に装着することでの歯周組織との調和について。ただ、補綴するだけにとどまらない、その人の生活に大きな影響を与える補綴は、歯科医師が装着し歯科衛生士がそれを使用し続けられるようにメンテナンスを行う。その重要性までを理解していく。 *PDI(post doctral insutitute)で学び、開業医として多くの人々の補綴を行う歯科医師による授業						
【授業計画】						
1	4/10	【1編】 歯科補綴の治療の基礎		①章 歯科補綴の概要		
2	4/17	歯科補綴治療の方法と補綴処置		補綴治療における歯科衛生士の役割		
3	4/24	2章 歯科補綴治療の基礎知識				
4	5/1	【2編】 歯科補綴治療の実際と歯科医衛生士の役割		①章 歯科補綴治療における検査		
5	5/15	②章 クラウン・ブリッジ治療 Cr&Br 治療の概要				
6	5/22	Cr&Br 治療の流れ 診療の補助				
7	5/29	③章 有床義歯治療 ・ 全部床義歯治療の補助				
8	6/5	全部床義歯の 治療の流れ と 診察の補助				
9	6/12	部分床義歯の治療の概要				
10	6/19	部分床義歯の流れと診療の補助				
11	6/26	④章 インプラント治療 インプラント治療の概要				
12	7/3	インプラント治療の流れと診療の補助				
13	7/10	⑤章 特殊な口腔内装置を用いる治療		⑥章 補綴歯科治療における機材の管理		
14	7/17	まとめ				
15	7/31	前期期末試験				
16	8/7	試験の解説、振り返り				
学習上の注意		教科書を繰り返し読む。使用する機材とその意味を覚えることで、日常臨床に直結する学びとなる				
評価方法		本試験(90%) 小テストを含む 授業態度 (10%)				
教科書		歯科医衛生学シリーズ「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴第2版」(医師薬出版社)		参考書		

25	区分	専門分野	形式	講義	前期・木曜日
授業科目名		高齢者歯科学	単位数		2
担当教員		元開 富士雄	履修年次		口腔 2年次
【授業の概要・到達目標】					
老化の概念を把握し、老化の社会性と心理と身体におけるプロセスを理解することで、老化における口腔機能の役割の重要性を理解する。また、口腔ケアの2面性を知りセルフプラークコントロールと口腔機能の低下防止の対応ができるようにする。介護者の口腔ケアにおける注意点と口腔ケアの実践を知る。					
＊ 歯科医師として歯科診療所で歯科医療に従事している担当教員による授業。					
【授業計画】					
1	4/10	超高齢社会と高齢者の環境			
2	4/17	高齢者の社会保障と地域包括ケアシステム			
3	4/24	身体と心の老化 1 老化と加齢と免疫			
4	5/1	身体と心の老化 2 器官・組織の老化			
5	5/15	身体と心の老化 3 脳とこころの老化 小テスト			
6	5/22	高齢者の全身疾患			
7	5/29	高齢者の身体評価・薬物への対応			
8	6/5	加齢による口腔内変化			
9	6/12	高齢者の口腔内疾患 小テスト			
10	6/19	高齢者歯科医療の場			
11	6/26	高齢者の口腔ケアの基本・全身疾患を持つ介護者の口腔衛生管理			
12	7/3	摂食・嚥下機能のメカニズムと口腔機能システム			
13	7/10	摂食・嚥下リハビリテーション			
14	7/17	介護保険と高齢者歯科の場における歯科衛生士の役割			
15	7/31	前期期末試験			
16	8/7	高齢者の口腔管理まとめ(口腔機能システム)			
学習上の注意		講義はスライドおよびプリントによる			
評価方法		本試験およびレポート提出により評価			
教科書		歯科衛生士講座 高齢者歯科学 (監著 森戸光彦)	参考書		

26	区分	専門分野	形式	講義	前期・火曜日
授業科目名		障害者歯科学	単位数		2
担当教員		篠塚 修	履修年次		口腔 2年次
【授業の概要・到達目標】					
障害の概念を理解するとともに障害の種類、身体的、心理的な特徴を把握する。障害者の歯科診療ならびに口腔衛生指導に必要な基本的知識を習得する。					
＊ 歯科医師として大学病院で歯科治療に従事していた経験を持つ担当教員による授業。					
【授業計画】					
1	4/8	障害の概念・分類・社会福祉			
2	4/15	障害者の身体的・心理的特徴(知的能力障害)			
3	4/22	障害者の身体的・心理的特徴(ダウン症候群 1)			
4	4/29	障害者の身体的・心理的特徴(ダウン症候群 2)			
5	5/13	障害者の身体的・心理的特徴(自閉スペクトラム症 1)			
6	5/20	障害者の身体的・心理的特徴(自閉スペクトラム症 2)			
7	5/27	障害者の身体的・心理的特徴(脳性麻痺・重症心身障害)			
8	6/3	障害者の身体的・心理的特徴 (筋ジストロフィー・てんかん)			
9	6/10	障害者の身体的・心理的特徴(視覚障害・聴覚障害)			
10	6/17	障害者の行動調整法 1			
11	6/24	障害者の行動調整法 2			
12	7/1	地域における障害者歯科・障害者歯科における口腔衛生指導			
13	7/8	摂食嚥下機能の発達と障害			
14	7/15	講義のまとめ			
15	7/29	前期期末試験			
16	8/5	前期期末試験解説			
学習上の注意		講義後は各自復習して下さい。			
評価方法		期末試験に日頃の受講態度等を加味して評価する。			
教科書		「歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学第1版」 医歯薬出版	参考書	「スペシャルニーズデンティストリー 障害者歯科第2版」 医歯薬出版	

27	区分	専門分野	形式	講義	後期・木曜日
授業科目名		小児歯科学	単位数		2
担当教員		元開 富士雄	履修年次		口腔 2年次
【授業の概要・到達目標】 口腔から子供を全体として捉えることで包括的な歯科診療体系を実践できるようにする。小児の歯科治療や予防に対する知識だけでなく、子供の背景にある生活や環境から予防を実践できるようにする。また、個々の子供の感覚入力による環境適応能力を把握することで診療がスムーズに運ぶようになることを目指す。 ＊ 歯科医師として歯科診療所で診療に従事している担当教員による授業					
【授業計画】					
1	9/25	小児歯科概論 口を通して子供の全体像を掴む			
2	10/2	小児の身体発達と心理発達および機能発達			
3	10/16	小児の口腔発達1 顔面顎口腔と歯列咬合の発生・発育			
4	10/23	小児の口腔発達2 乳歯の特徴と発生			
5	10/30	小児の歯と口の疾病1 先天疾患と軟組織疾患			
6	11/6	小児の歯と口腔疾病2 歯列の発育と歯列・咬合異常			
7	11/13	小児の歯と口腔の疾病3 小児のう蝕			
8	11/20	小児の取り扱い			
9	11/27	小児の治療体系と口腔衛生指導と治療計画			
10	12/4	小児の栄養指導と予防			
11	12/11	小児のう蝕治療			
12	1/8	小児のう蝕予防と口腔衛生指導			
13	1/15	小児の咬合管理(咬合誘導と早期治療)			
14	1/22	発達障害の概念・発達障害児の取り扱い／口腔習癖			
15	1/29	後期期末試験			
16	2/5	小児歯科学の実践のまとめ			
学習上の注意		特になし、講義はスライドおよびプリントによる			
評価方法		本試験およびレポート提出により評価			
教科書		歯科衛生学シリーズ 小児歯科(医歯薬出版)	参考書		

28	区分	専門分野	形式	講義	後期・木曜日
授業科目名		歯科矯正学	単位数		2
担当教員		小野 将弘	履修年次		口腔 2年次
【授業の概要・到達目標】					
矯正歯科学の定義や知識と概念、治療の必要性、利益とリスクを学習する。また、一般的な矯正治療の流れ、臨床で歯科衛生士が行う手技、業務を学び、患者中心の医療とチーム医療、チームの一員としての歯科衛生士の役割を学ぶ。					
＊ 歯科医師として矯正治療に従事している担当教員による授業					
【授業計画】					
1	9/25	Ⅰ編 矯正歯科治療に関する基礎知識 1章 矯正歯科治療の概要			
2	10/2	2章 成長発育 前編			
3	10/16	2章 成長発育 後編 3章 正常咬合と不正咬合 前編			
4	10/23	3章 正常咬合と不正咬合 後編			
5	10/30	4章 矯正歯科診断			
6	11/6	5章 矯正歯科治療と“力” -矯正力・顎整形力・保定-			
7	11/13	6章 矯正装置			
8	11/20	●矯正歯科治療の実際 ・上下顎の前後的関係の不調和・上下顎の垂直的關係の不調和(過蓋咬合・開咬)・成人矯正			
9	11/27	・口腔顔面の形成異常と変形・歯の埋伏と歯数の異常			
10	12/4	●復習① ●矯正歯科治療時のリスクとトラブルへの対応・健康保険が適用される矯正歯科治療			
11	12/11	Ⅱ編 矯正歯科治療と歯科衛生士の役割 1章 矯正歯科治療に用いる器材と使用の手順 前編			
12	1/8	1章 矯正歯科治療に用いる器材と使用の手順 後編			
13	1/15	2章 口腔筋機能療法(MFT)			
14	1/22	3章 矯正歯科治療における口腔保健管理と指導 4章 矯正歯科治療にかかわる歯科衛生の実践			
15	1/29	後期期末試験			
16	2/5	復習② マウスピースを用いた矯正治療の注意点			
学習上の注意		授業開始時に毎回小テストを行います、出題範囲は原則前回講義分とします。 欠席の場合は小テストは0点となります。日頃から復習の習慣を身に着けましょう。			
評価方法		授業態度 小テスト 筆記試験			
教科書		歯科衛生学シリーズ 咀嚼障害・咬合異常 2 歯科矯正 医歯薬出版株式会社	参考書		

29	区分	専門分野	形式	講義	前期・月曜日
授業科目名		口腔外科学	単位数		2
担当教員		富田 美穂子	履修年次		口腔 2年次
【授業の概要・到達目標】					
【概要】顎・顔面領域の外科的疾患について、その原因、診断、症状、治療法および予後について理解する。各疾患の特徴を捉え、口腔症状と全身疾患の関連性について理解する。口腔外科手術の準備、介助および片付けがスムーズに実施できる知識を身につける。					
【到達目標】顎・顔面領域の外科的疾患の症状や治療法を理解し、手術の介助が行えると同時に、患者に寄り添える医療人を目指す。					
＊総合病院等の口腔外科で診療をしていた担当教員による授業。					
【授業計画】					
1	4/7	口腔外科の概要			
2	4/14	基礎疾患と歯科治療			
3	4/21	口腔領域の先天異常と発育異常			
4	4/28	顎・口腔領域の損傷・機能障害			
5	5/12	口腔粘膜の病変			
6	5/19	炎症性疾患			
7	5/26	嚢胞			
8	6/2	顎・口腔領域の腫瘍①			
9	6/9	顎・口腔領域の腫瘍②			
10	6/16	唾液腺疾患・神経疾患			
11	6/23	顎関節症・血液疾患			
12	6/30	全身疾患による口腔領域の症状			
13	7/7	口腔外科診療の実際			
14	7/14	治療の実際			
15	7/28	前期期末試験			
16	8/4	前期試験の解説とまとめ			
学習上の注意		口腔領域の外科疾患の特徴を理解するためには、何度も繰り返し勉強することが必要である。講義内容は教科書で予習し、講義が終了した後は復習をすること。確認のために、定期的に小テストを行う。			
評価方法		期末試験(100%)			
教科書		歯科衛生学シリーズ「口腔外科学・歯科麻酔学」(医歯薬出版)	参考書		

30	区分	専門分野	形式	講義	前期・月曜日
授業科目名		歯科予防処置論Ⅰ	単位数		2
担当教員		富田 そら	履修年次		口腔 1年次
【授業の概要・到達目標】					
口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるための専門的知識を修得する。①歯周病の発生・原因 ②歯周病予防 ③う蝕の発生・原因 ④う蝕予防処置 について学ぶ ＊ 歯科衛生士として臨床経験をもつ教員による授業					
【授業計画】					
1	4/7	歯科予防処置論の概要・歯科予防処置の基礎知識			
2	4/14	口腔内の基礎知識			
3	4/21	歯周病予防の基礎知識			
4	4/28	歯周基本治療① 口腔内診査			
5	5/12	歯周基本治療② 口腔状態の評価			
6	5/19	歯周基本治療③ スケーリング(手用スケーラー)			
7	5/26	歯周基本治療④ スケーリング(超音波スケーラー, エアスケーラー)			
8	6/2	歯面清掃・研磨			
9	6/9	歯周の総まとめ			
10	6/16	う蝕予防処置法の基礎知識			
11	6/23	リスクテスト			
12	6/30	フッ化物応用法			
13	7/7	フッ化物以外のプロフェッショナルケア			
14	7/14	メンテナンス・予防プログラム			
15	7/28	前期期末試験			
16	8/4	解答・解説			
学習上の注意		予習は教科書を読んでおくこと。復習は学習ノート,プリントを確認しておくこと			
評価方法		期末試験(80%)、授業態度、提出物等(20%)			
教科書		歯科衛生士シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(全国歯科衛生士教育協議会監修)	参考書	歯科衛生士シリーズ「歯周病学」(全国歯科衛生士教育協議会監修)	

31	区分	専門分野			形式	講義	後期・月曜日	
授業科目名		歯科予防処置論Ⅱ			単位数		2	
担当教員		鈴木 香保利・富田 そら			履修年次		口腔 1年次	
【授業の概要・到達目標】								
概要: 歯科予防処置のための知識と技術を学ぶ								
到達目標								
① 歯科予防処置論の定義と知識を習得する								
② 歯科予防処置に必要なアセスメント技術を学ぶ								
③ ハンドスケーラーの技術を習得し、マネキンで操作できる								
＊ 歯科衛生士として臨床経験をもつ教員による授業								
【授業計画】								
1	9/22	歯・歯周組織の基本知識/ミラーテクニック/プロービング①			17	11/24	シックルスケーラー⑬	
2	9/22	歯・歯周組織の基本知識/ミラーテクニック/プロービング②			18	11/24	シックルスケーラー⑭	
3	9/29	プロービング/ポジショニング/探針操作①			19	12/1	シックルスケーラー⑮	
4	9/29	プロービング/ポジショニング/探針操作②			20	12/1	シックルスケーラー⑯	
5	10/6	シックルスケーラー①			21	12/8	実技総合①	
6	10/6	シックルスケーラー②			22	12/8	実技総合②	
7	10/20	シックルスケーラー③			23	12/15	キュレットスケーラー①	
8	10/20	シックルスケーラー④			24	12/15	キュレットスケーラー②	
9	10/27	シックルスケーラー⑤			25	12/18 (木曜)	キュレットスケーラー③	
10	10/27	シックルスケーラー⑥			26	12/18 (木曜)	キュレットスケーラー④	
11	11/6 (木曜)	シックルスケーラー⑦			27	1/19	シャープニング(シックルスケーラー/グレーシー キュレット#5/6)①	
12	11/6 (木曜)	シックルスケーラー⑧			28	1/19	シャープニング(シックルスケーラー/グレーシー キュレット#5/6)②	
13	11/10	シックルスケーラー⑨			29	1/26	総まとめ①	
14	11/10	シックルスケーラー⑩			30	1/26	総まとめ②	
15	11/17	シックルスケーラー⑪			31	2/2	後期期末試験/解説	
16	11/17	シックルスケーラー⑫						
学習上の注意		マネキンや顎模型などは丁寧に扱うこと。授業中の私語、スマホは禁止とします。 自習により習った技術は復習し身につけること。						
評価方法		期末試験60%/実技試験30%/小テストまたは提出物10% 忘れ物や身だしなみが整っていない場合は総合点数から減点します。						
教科書		歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)			参考書		歯科衛生学シリーズ「歯周病学」(医歯薬出版)	

32	区分	専門分野			形式	講義	前期・月曜日	
授業科目名		歯科予防処置論Ⅲ			単位数		2	
担当教員		富田 そら ・ 鈴木 香保利			履修年次		口腔 2年次	
【授業の概要・到達目標】								
う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、う蝕予防処置法(フッ化物歯面塗布法・小窩裂溝填塞法)や、う蝕関連項目(う蝕活動性試験・フッ化ジアンミン塗布法・PMTC)の目的,方法,所要条件,実施上の注意事項の知識及び専門的な技術、態度を習得する。 ＊ 歯科衛生士として臨床経験をもつ教員による授業								
【授業計画】								
1	4/7	う蝕予防処置の基礎①	17	6/9	小窩裂溝填塞①			
2	4/7	う蝕予防処置の基礎②	18	6/9	小窩裂溝填塞①			
3	4/14	フッ化物の基礎①	19	6/16	小窩裂溝填塞②			
4	4/14	フッ化物の基礎②	20	6/16	小窩裂溝填塞②			
5	4/21	フッ化物の応用①	21	6/23	う蝕活動性試験①			
6	4/21	フッ化物の応用②	22	6/23	う蝕活動性試験①			
7	4/28	フッ化物の応用③	23	6/30	う蝕活動性試験②			
8	4/28	フッ化物の応用④	24	6/30	う蝕活動性試験②			
9	5/12	フッ化物歯面塗布①	25	7/7	う蝕活動性試験③			
10	5/12	フッ化物歯面塗布②	26	7/7	う蝕活動性試験③			
11	5/19	フッ化物歯面塗布③	27	7/14	メンテナンス			
12	5/19	フッ化物歯面塗布④	28	7/14	メンテナンス			
13	5/26	PMTC①	29	7/28	前期期末試験			
14	5/26	PMTC②	30	8/4	試験解説			
15	6/2	フッ化ジアンミン銀の応用①	31	8/4	まとめ			
16	6/2	フッ化ジアンミン銀の応用②						
学習上の注意		教科書や授業資料を復習し、知識と技術を身につけること						
評価方法		期末試験(90%)、小テスト、授業態度(10%)						
教科書		歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(全国歯科衛生士教育協議会監修)		参考書				

33	区分	専門分野			形式	講義	前期・水曜日
授業科目名		歯科予防処置論Ⅳ			単位数		2
担当教員		鈴木 香保利・富田 そら			履修年次		口腔 2年次
【授業の概要・到達目標】							
概要: 歯科予防処置の実践力を養う							
到達目標:							
① 歯科予防処置のための専門的な知識・技術を習得し、実践できる							
② 清潔・不潔を考慮し実践できる							
＊ 歯科衛生士として臨床経験をもつ教員による授業							
【授業計画】							
1	4/9	相互実習 歯周組織検査①	17	6/11	相互実習 歯周組織検査/染め出し(綿棒法)/エアスケーラー・超音波スケーラー/歯面研磨/フッ化物歯面塗布(綿球法)1		
2	4/9	相互実習 歯周組織検査②	18	6/11	相互実習 歯周組織検査/染め出し(綿棒法)/エアスケーラー・超音波スケーラー/歯面研磨/フッ化物歯面塗布(綿球法)2		
3	4/16	相互実習 歯周組織検査/染め出し/術者磨き/フッ化物歯面塗布(歯ブラシ法)1	19	6/18	相互実習 歯周組織検査/染め出し(綿棒法)/エアスケーラー・超音波スケーラー/歯面研磨/フッ化物歯面塗布(綿球法)1		
4	4/16	相互実習 歯周組織検査/染め出し/術者磨き/フッ化物歯面塗布(歯ブラシ法)2	20	6/18	相互実習 歯周組織検査/染め出し(綿棒法)/エアスケーラー・超音波スケーラー/歯面研磨/フッ化物歯面塗布(綿球法)2		
5	4/23	相互実習 歯周組織検査・＜前歯部＞シックルスケーラーでのスケーリング/フッ化物歯面塗布(綿球法)1	21	7/2	相互実習 歯周組織検査/染め出し(綿球法)/エアスケーラー・超音波スケーラー/歯面研磨/フッ化物歯面塗布(綿球法)3		
6	4/23	相互実習 歯周組織検査・＜前歯部＞シックルスケーラーでのスケーリング/フッ化物歯面塗布(綿球法)2	22	7/2	相互実習 歯周組織検査/染め出し(綿球法)/エアスケーラー・超音波スケーラー/歯面研磨/フッ化物歯面塗布(綿球法)4		
7	4/30	相互実習 歯周組織検査/＜下顎臼歯部＞シックルスケーラーでのスケーリング/フッ化物歯面塗布(綿球法)1	23	7/9	相互実習 歯周組織検査/染め出し(綿球法)/エアスケーラー・超音波スケーラー/歯面研磨/フッ化物歯面塗布(綿球法)5		
8	4/30	相互実習 歯周組織検査/＜下顎臼歯部＞シックルスケーラーでのスケーリング/フッ化物歯面塗布(綿球法)2	24	7/9	相互実習 歯周組織検査/染め出し(綿球法)/エアスケーラー・超音波スケーラー/歯面研磨/フッ化物歯面塗布(綿球法)6		
9	5/14	相互実習 歯周組織検査/＜上顎臼歯部＞シックルスケーラーでのスケーリング/フッ化物歯面塗布(綿球法)1	25	7/16	相互実習/小窩裂溝充填塞法(ラバーダムあり)1		
10	5/14	相互実習 歯周組織検査/＜上顎臼歯部＞シックルスケーラーでのスケーリング/フッ化物歯面塗布(綿球法)2	26	7/16	相互実習/小窩裂溝充填塞法(ラバーダムあり)2		
11	5/21	演習 機械的スケーリング(顎模型)/バキュームテクニック1	27	7/23	相互実習/小窩裂溝充填塞法(ラバーダムあり)3		
12	5/21	演習 機械的スケーリング(顎模型)/バキュームテクニック2	28	7/23	相互実習/小窩裂溝充填塞法(ラバーダムあり)4		
13	5/28	相互実習 歯周組織検査/染め出し/歯面研磨/フロッシング/フッ化物歯面塗布(綿球法)1	29	7/30	前期期末試験		
14	5/28	相互実習 歯周組織検査/染め出し/歯面研磨/フロッシング/フッ化物歯面塗布(綿球法)2	30	8/6	試験解説		
15	6/4	相互実習 歯周組織検査/染め出し(綿球法)/エアスケーラー・超音波スケーラー/歯面研磨/フッ化物歯面塗布(綿球法)1	31	8/6	総まとめ		
16	6/4	相互実習 歯周組織検査/染め出し(綿球法)/エアスケーラー・超音波スケーラー/歯面研磨/フッ化物歯面塗布(綿球法)2					
学習上の注意		ユニットや器具器材などは丁寧に扱うこと。授業中の私語、スマホは禁止とします。 身だしなみが基準を満たしていない場合は参加できません。 自習により習った技術は復習すること。					
評価方法		期末試験80%/小テストまたは提出物20% 忘れ物や身だしなみが整っていない場合は総合点数から減点します。					
教科書		歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)		参考書		歯科衛生学シリーズ「歯周病学」(医歯薬出版)	

34	区分	専門分野	形式	講義	前期・月曜日
授業科目名		歯科予防処置論Ⅴ	単位数		2
担当教員		鈴木 香保利・富田 そら	履修年次		口腔 2年次
【授業の概要・到達目標】					
概要: 歯科予防処置のための知識と技術を学ぶ					
到達目標					
①ハンドスケーラーの技術を習得し、マネキンで操作できる					
②シャープニングの技術を習得し、操作できる					
③歯周ポケット内洗浄・機械的スケーラーの基本知識と技術を習得し操作できる					
＊ 歯科衛生士として臨床経験をもつ教員による授業					
【授業計画】					
1	4/7	キュレットスケーラー①			
2	4/14	キュレットスケーラー②			
3	4/21	キュレットスケーラー③			
4	4/28	キュレットスケーラー④			
5	5/12	キュレットスケーラー⑤			
6	5/19	キュレットスケーラー⑥			
7	5/26	シャープニング			
8	6/2	歯周ポケット内洗浄			
9	6/9	機械的スケーラー①			
10	6/16	機械的スケーラー②			
11	6/23	機械的スケーラー③			
12	6/30	機械的スケーラー④			
13	7/7	総復習			
14	7/21	実技総合			
15	7/28	前期期末試験			
16	8/4	総まとめ			
学習上の注意		マネキンや顎模型などは丁寧に扱うこと。授業中の私語、スマホは禁止とします。 身だしなみが基準を満たしていない場合は実習に参加できません。 自習により習った技術は復習すること。			
評価方法		期末試験60%/実技試験30%/小テストまたは提出物10% 忘れ物や身だしなみが整っていない場合は総合点数から減点します。			
教科書		歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)	参考書	歯科衛生学シリーズ「歯周病学」(医歯薬出版)	

35	区分	専門分野			形式	講義	後期・火曜日
授業科目名		歯科保健指導論Ⅰ			単位数		4
担当教員		小川 磨美 ・ 丸山 夏葵			履修年次		口腔1年次
【授業の概要・到達目標】							
健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、歯科保健指導に必要な知識、技術および態度を習得する。							
【到達目標】							
1) 歯科保健指導の概要を説明できる。2) 歯・口腔の正常と異常が把握できる。							
3) 歯ブラシの種類と特徴を説明できる。4) 口腔清掃状態の指標（O’LearyのPCR）が把握できる。							
5) 各種ブラッシング方法の特徴を説明できる。6) 各種ブラッシング方法を実施できる。							
7) 歯磨剤・洗口剤の特徴と使用方法を説明できる。8) 補助的清掃用具の種類と特徴、適応を説明できる。							
＊ 歯科衛生士として臨床経験をもつ教員による授業							
【授業計画】							
1	9/30	総論①(予防の概念・健康の概念)1	17	12/2	歯科衛生介入としての歯科保健指導① (口腔衛生管理に関わる指導)1		
2	9/30	総論①(予防の概念・健康の概念)2	18	12/2	歯科衛生介入としての歯科保健指導① (口腔衛生管理に関わる指導)2		
3	10/7	総論①(予防の概念・健康の概念)3	19	12/9	歯科衛生介入としての歯科保健指導② (口腔機能管理に関わる指導)1		
4	10/7	総論①(予防の概念・健康の概念)4	20	12/9	歯科衛生介入としての歯科保健指導② (口腔機能管理に関わる指導)2		
5	10/14	口腔の基礎知識①(口腔・口腔周囲の構造)1	21	12/16	歯科衛生介入としての歯科保健指導② (口腔機能管理に関わる指導)3		
6	10/14	口腔の基礎知識①(口腔・口腔周囲の構造)2	22	12/16	歯科衛生介入としての歯科保健指導② (口腔機能管理に関わる指導)4		
7	10/21	口腔の基礎知識②(口腔機能)1	23	1/13	歯科衛生介入としての歯科保健指導④ (食生活指導)1		
8	10/21	口腔の基礎知識②(口腔機能)2	24	1/13	歯科衛生介入としての歯科保健指導④ (食生活指導)2		
9	10/28	保健行動支援のための基礎知識①	25	1/20	実習【染め出し・ブラッシング・歯磨剤】1		
10	10/28	保健行動支援のための基礎知識②	26	1/20	実習【染め出し・ブラッシング・歯磨剤】2		
11	11/4	保健行動支援のための基礎知識③	27	1/27	まとめ①		
12	11/4	保健行動支援のための基礎知識④	28	1/27	まとめ②		
13	11/11	歯科衛生アセスメントとしての情報収集①	29	2/3	後期期末試験		
14	11/11	歯科衛生アセスメントとしての情報収集②	30	2/10	試験解説		
15	11/25	歯科衛生アセスメントとしての情報収集③	31	2/10	総まとめ		
16	11/25	歯科衛生アセスメントとしての情報収集④					
学習上の注意		・授業中の電子媒体(スマホ・タブレット・ウェアラブル端末等)の使用は担当教員の許可がない限り、原則禁止とする、 ・授業前の予習と、授業後は復習を行うこと					
評価方法		本試験90%・授業態度10%					
教科書		歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」		参考書			

36	区分	専門分野	形式	講義	前期・金曜日
授業科目名		歯科保健指導論Ⅱ	単位数		2
担当教員		鈴木 香保利 ・ 小川 磨美	履修年次		口腔 2年次
【授業の概要・到達目標】					
歯科衛生過程のプロセスとその内容、対象者の健康支援のための情報収集と情報処理、対象者に応じた歯科保健指導について学ぶ。※歯科衛生士として10年以上の幅広い分野において臨床経験のある歯科衛生士による授業					
到達目標①歯科衛生過程について説明できる。					
②歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理ができる。					
③対象者に応じた口腔衛生管理、口腔機能管理、生活習慣指導、食事指導について説明できる。					
＊歯科衛生士として臨床経験をもつ教員による授業					
【授業計画】					
1	4/11	保健行動支援のための基礎知識			
2	4/25	歯科衛生過程の進め方①			
3	5/2	歯科衛生過程の進め方②			
4	5/9	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理①			
5	5/16	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理②			
6	5/23	口腔衛生管理に関わる指導			
7	5/30	口腔機能管理に関わる指導			
8	6/6	生活習慣の指導			
9	6/20	食生活の指導			
10	6/27	ライフステージに対応した歯科衛生介入:妊産婦期			
11	7/4	ライフステージに対応した歯科衛生介入:学齢期			
12	7/11	ライフステージに対応した歯科衛生介入:高齢期			
13	7/18	配慮を要する者への歯科衛生介入:要介護高齢者			
14	7/25	配慮を要する者への歯科衛生介入:大規模災害被災者			
15	8/1	前期期末試験			
16	8/8	総まとめ			
学習上の注意		毎回復習をすること。講義中の私語、タブレット等を触ることは厳禁とします。			
評価方法		期末試験80%、提出物または小テスト20%、			
教科書		歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)	参考書	「新歯科保健指導ハンドブック」(医歯薬出版)	

37	区分	専門分野			形式	講義・演習	前期・金曜日
授業科目名		歯科保健指導論Ⅲ			単位数		4
担当教員		鈴木 香保利 ・ 小川 磨美			履修年次		口腔 2年次
【授業の概要・到達目標】							
歯科衛生過程のプロセスとその内容、対象者の健康支援のための情報収集と情報処理、対象者に応じた歯科保健指導について学ぶ。※歯科衛生士として10年以上の幅広い分野において臨床経験のある歯科衛生士による授業							
到達目標①歯科衛生過程について説明できる。							
②歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理ができる。							
③対象者に応じた口腔衛生管理、口腔機能管理、生活習慣指導、食事指導について説明できる。							
＊歯科衛生士として臨床経験をもつ教員による授業							
【授業計画】							
1	4/11	保健行動支援のための基礎知識①	17	6/20	食生活の指導①		
2	4/11	保健行動支援のための基礎知識②	18	6/20	食生活の指導②		
3	4/25	演習 歯科衛生過程の進め方①	19	6/27	ライフステージに対応した歯科衛生介入：乳児期・幼児期①		
4	4/25	演習 歯科衛生過程の進め方②	20	6/27	ライフステージに対応した歯科衛生介入：乳児期・幼児期②		
5	5/2	演習 歯科衛生過程の進め方①	21	7/4	ライフステージに対応した歯科衛生介入：思春期・成人期①		
6	5/2	演習 歯科衛生過程の進め方②	22	7/4	ライフステージに対応した歯科衛生介入：思春期・成人期②		
7	5/9	演習 歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理①	23	7/11	講義 ライフステージに対応した歯科衛生介入：高齢期①		
8	5/9	演習 歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理②	24	7/11	講義 ライフステージに対応した歯科衛生介入：高齢期②		
9	5/16	演習 歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理③	25	7/15	講義 配慮を要する者への歯科衛生介入：要介護高齢者①		
10	5/16	演習 歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理④	26	7/15	講義 配慮を要する者への歯科衛生介入：要介護高齢者②		
11	5/23	演習 歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理⑤	27	7/18	講義 配慮を要する者への歯科衛生介入：要介護高齢者③		
12	5/23	演習 歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理⑥	28	7/18	講義 配慮を要する者への歯科衛生介入：要介護高齢者④		
13	5/30	演習 口腔機能管理に関わる指導①	29	7/25	講義 配慮を要する者への歯科衛生介入：障害児者①		
14	5/30	演習 口腔機能管理に関わる指導②	30	7/25	講義 配慮を要する者への歯科衛生介入：障害児者②		
15	6/6	生活習慣の指導①	31	8/1	前期期末試験		
16	6/6	生活習慣の指導②					
学習上の注意		毎回復習をすること。講義中の私語、タブレット等を触ることは厳禁とします。実習時に身だしなみが基準を満たしていない場合は参加できません。					
評価方法		期末試験80%、提出物20% (忘れ物や実習時に身だしなみが整っていない場合は総合点数から減点します)。					
教科書		歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)		参考書		「新歯科保健指導ハンドブック」(医歯薬出版)	

38	区分	専門分野				形式	講義	前期・木曜日	
授業科目名		歯科保健指導論Ⅳ				単位数		2	
担当教員		鈴木 香保利 ・ 小川 磨美				履修年次		口腔 3年次	
【授業の概要・到達目標】 地域歯科保健活動における健康教育について学ぶ。 到達目標 ①地域歯科保健活動について説明できる。 ②対象者に応じた健康教育について説明できる。 ＊ 歯科衛生士として臨床経験をもつ教員による授業									
【授業計画】									
1	4/17	地域歯科保健活動における健康教育①	17	6/26	講義 総まとめ③				
2	4/17	地域歯科保健活動における健康教育②	18	6/26	講義 総まとめ④				
3	4/17	地域歯科保健活動における健康教育③	19	6/26	講義 総まとめ⑤				
4	4/17	地域歯科保健活動における健康教育④	20	6/26	講義 総まとめ⑥				
5	5/1	地域歯科保健活動における健康教育⑤	21	7/10	講義 総まとめ⑦				
6	5/1	地域歯科保健活動における健康教育⑥	22	7/10	講義 総まとめ⑧				
7	5/1	地域歯科保健活動における健康教育⑦	23	7/10	講義 総まとめ⑨				
8	5/1	地域歯科保健活動における健康教育⑧	24	7/10	講義 総まとめ⑩				
9	5/29	地域歯科保健活動における健康教育⑨	25	7/17	講義 総まとめ⑪				
10	5/29	地域歯科保健活動における健康教育⑩	26	7/17	講義 総まとめ⑫				
11	5/29	地域歯科保健活動における健康教育⑪	27	7/17	講義 総まとめ⑬				
12	5/29	地域歯科保健活動における健康教育⑫	28	7/17	講義 総まとめ⑭				
13	6/12	地域歯科保健活動における健康教育⑬	29	7/31	前期期末試験				
14	6/12	地域歯科保健活動における健康教育⑭	30	8/7	試験解説				
15	6/12	講義 総まとめ①	31	8/7	総復習				
16	6/12	講義 総まとめ②							
学習上の注意		毎回復習をすること。講義中の私語、タブレット等を触ることは厳禁とします。							
評価方法		期末試験80%、提出物20% グループワークにおいて参加しない、迷惑行為などを行った場合は総点数から減点します。							
教科書		歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)		参考書		「新歯科保健指導ハンドブック」(医歯薬出版)			

39	区分	専門分野	形式	講義	後期・木曜日
授業科目名		歯科保健指導論Ⅴ(栄養指導含む)	単位数		2
担当教員		元開 富士雄	履修年次		口腔 3年次
【授業の概要・到達目標】					
栄養と健康・疾病の関係性を理解し、口腔疾患を持つ患者の食生活習慣を改善させるための行動変容理論を習得する。また、ライフステージごとの栄養に関わる知識を習得し、臨床の場で適切な指導ができるようになることを目指す。また、スポーツ競技者の栄養管理ならびに顎運動リハビリと筋機能療法の理解を目指す。 * 歯科医師として歯科診療所で歯科医療に従事している担当教員による授業。					
【授業計画】					
1	9/11	食生活の基礎知識(食の変遷、健康日本21と食育基本法)、行動変容の基礎知識			
2	9/11	食生活と生活習慣病に関わる口腔疾患			
3	9/25	妊産婦・新生児・乳幼児の栄養管理と栄養指導			
4	10/2	乳幼児の食生活指導の実践			
5	10/7	学童期・青年期・成人の栄養管理と栄養指導			
6	10/16	老人期・障害児者の栄養管理と栄養指導			
7	10/23	高齢者の食生活指導の実践			
8	10/30	嚥下障害と睡眠障害への対応			
9	11/6	アスリートの口腔疾患とスポーツ栄養管理成人・			
10	11/13	全身運動と顎運動間の遠心促通、噛みしめの効果			
11	11/20	スポーツ外傷とマウスピース・マウスガードの作成法			
12	11/27	顎運動機能の評価と顎機能のリハビリと筋機能訓練(MFT)			
13	12/2	小児の口腔管理と指導(小児歯科学国試対策)			
14	12/2	高齢者の口腔管理と指導(高齢者歯科国試対策)			
15	12/4	後期期末試験			
16	12/11	まとめ、国試対策			
学習上の注意		講義はスライドおよびプリントによる			
評価方法		本試験により評価			
教科書		歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(全国歯科衛生士教育協議会監修) 歯科衛生学シリーズ「栄養と代謝」(医歯薬出版)	参考書		

40	区分	専門分野	形式	講義	前期・金曜日
授業科目名		歯科診療補助論Ⅰ	単位数		2
担当教員		丸山 夏葵	履修年次		口腔 1年次
【授業の概要・到達目標】					
歯科診療の補助を行う上での基本的な専門知識を習得する。 ①歯科診療補助の規定および業務範囲を理解する。 ②滅菌・消毒・洗浄の基本を習得する。 ③標準予防策や偶発事故の防止について理解、対応できる。 ④廃棄物の処理方法など診療室の管理ができる能力を養う。 ⑤歯科衛生士として周囲と円滑なコミュニケーションを図るための基本的な作法を習得する。 ＊歯科衛生士として臨床経験をもつ教員による授業					
【授業計画】					
1	4/11	オリエンテーション・歯科衛生士の役割			
2	4/25	歯科診療補助の概要			
3	5/2	医療安全			
4	5/9	感染予防			
5	5/16	手指消毒			
6	5/23	滅菌と消毒1			
7	5/30	滅菌と消毒2			
8	6/6	医療廃棄物			
9	6/20	歯科診療室の環境			
10	6/27	患者対応1			
11	7/4	患者対応2			
12	7/11	共同動作1			
13	7/18	共同動作2			
14	7/25	まとめ			
15	8/1	前期期末試験			
16	8/8	期末試験の振り返り			
学習上の注意		予習は教科書で行う。復習は配布プリント・ノートを中心に行う。			
評価方法		期末試験(90%)、小テストまたは提出物(10%)による総合評価			
教科書		歯科衛生学シリーズ『歯科診療補助論』『歯科材料』(医歯薬出版株式会社)	参考書		

41	区分	専門分野	形式	講義	後期・水曜日
授業科目名		歯科診療補助論Ⅱ（講義）	単位数		2
担当教員		丸山 夏葵 ・ 富田 そら	履修年次		口腔 1年次
【授業の概要・到達目標】					
実習を通じて、歯科材料や器具の取り扱いについての基礎的な理論と技術を習得する。 ①各衛生材料の作成と準備を行える。 ②歯科材料を適切に取り扱うことができる。 ③診療の補助における基本的な技術を習得する。 ＊ 歯科衛生士として臨床経験をもつ教員による授業					
【授業計画】					
1	9/24	歯科材料の管理・小材料作製法			
2	10/1	印象材①			
3	10/8	合着材・接着材			
4	10/15	印象材②			
5	10/22	印象材③			
6	10/28	スタディモデル作製①			
7	11/5	スタディモデル作製②			
8	11/12	印象材④			
9	11/19	仮封材			
10	12/3	仮封材②			
11	12/10	プロビジョナルレストレーション			
12	1/7	ラバーダム防湿			
13	1/14	口腔内写真撮影法			
14	1/21	成形修復材・歯周パック			
15	1/28	後期期末試験			
16	2/4	期末試験の振り返り			
学習上の注意		予習は教科書・配布資料で行う。復習は、授業プリントを中心に行い、実習内容を整理しておく。			
評価方法		期末試験(90%)、小テストまたは提出物(10%)による総合評価			
教科書		歯科衛生学シリーズ『歯科診療補助論』『歯科材料』(医歯薬出版株式会社)	参考書		

42	区分	専門分野				形式	実習	後期・水曜日
授業科目名		歯科診療補助論Ⅱ（実習）				単位数		2
担当教員		丸山 夏葵 ・ 富田 そら				履修年次		口腔 1年次
【授業の概要・到達目標】								
実習を通じて、歯科材料や器具の取り扱いについての基礎的な理論と技術を習得する。 ①各衛生材料の作成と準備を行える。 ②歯科材料を適切に取り扱うことができる。 ③診療の補助における基本的な技術を習得する。 ＊歯科衛生士として臨床経験をもつ教員による授業								
【授業計画】								
1	9/24	歯科材料の管理・小材料作製法①	17	11/19	仮封材①			
2	9/24	歯科材料の管理・小材料作製法②	18	11/19	仮封材②			
3	10/1	印象材①	19	12/3	仮封材③			
4	10/1	印象材②	20	12/3	仮封材④			
5	10/8	合着材・接着材①	21	12/10	プロビジョナルレストレーション①			
6	10/8	合着材・接着材②	22	12/10	プロビジョナルレストレーション②			
7	10/15	印象材③	23	1/7	ラバーダム防湿①			
8	10/15	印象材④	24	1/7	ラバーダム防湿②			
9	10/22	印象材⑤	25	1/14	口腔内写真撮影法①			
10	10/22	印象材⑥	26	1/14	口腔内写真撮影法②			
11	10/28	スタディモデル作製①	27	1/21	成形修復材・歯周パック①			
12	10/28	スタディモデル作製②	28	1/21	成形修復材・歯周パック②			
13	11/5	スタディモデル作製③	29	1/28	後期期末試験			
14	11/5	スタディモデル作製④	30	2/4	期末試験の振り返り			
15	11/12	印象材⑦	31	2/4	総まとめ			
16	11/12	印象材⑧						
学習上の注意		予習は教科書・配布資料で行う。復習は、授業プリントを中心に行い、実習内容を整理しておく。						
評価方法		期末試験(90%)、レポート提出・実習態度(10%)による総合評価						
教科書		歯科衛生学シリーズ『歯科診療補助論』 『歯科材料』(医歯薬出版株式会社)		参考書				

43	区分	専門分野			形式	講義	前期・水曜日	
授業科目名		歯科診療補助論Ⅲ			単位数		2	
担当教員		丸山夏葵 ・ 小川磨美 ・ 川島貴重			履修年次		口腔 2年次	
【授業の概要・到達目標】								
歯科診療の補助・介助を安全で適切に行うために診療器具の用途や管理方法を学ぶ。 ①器具の名称・取り扱いを説明できる。 ②歯科診療の術式に沿った器具の準備・片付けを行える。 ③歯科診療の補助における歯科衛生士の役割を理解する。 ＊ 歯科衛生士として臨床経験をもつ教員による授業								
【授業計画】								
1	4/9	歯科用器具 保存①	17	6/11	ラバーダム防湿①			
2	4/9	歯科用器具 保存②	18	6/11	ラバーダム防湿②			
3	4/16	歯科用器具 保存③	19	6/18	歯科用器具 矯正①			
4	4/16	歯科用器具 保存④	20	6/18	歯科用器具 矯正②			
5	4/23	歯科用器具 補綴	21	6/25	歯科用器具 小児・高齢者・障害者/学外実習(GC)1 歯科用器具 小児・高齢者・障害者/学外実習(GC)2			
6	4/23	歯科用器具 補綴	22	6/25				
7	4/30	歯科用器具 歯内①	23	7/2	摂食嚥下リハビリテーション①			
8	4/30	歯科用器具 歯内②	24	7/2	摂食嚥下リハビリテーション②			
9	5/14	歯科用器具 歯内③	25	7/9	摂食嚥下リハビリテーション③			
10	5/14	歯科用器具 歯内④	26	7/9	摂食嚥下リハビリテーション④			
11	5/21	歯科用器具 歯周①	27	7/16	摂食嚥下リハビリテーション⑤			
12	5/21	歯科用器具 歯周②	28	7/16	摂食嚥下リハビリテーション⑥			
13	5/28	歯科用器具 口腔外科①	29	7/30	前期期末試験			
14	5/28	歯科用器具 口腔外科②	30	8/6	前期期末試験の振り返り			
15	6/4	歯科用器具 インプラント①	31	8/6	総まとめ			
16	6/4	歯科用器具 インプラント②						
学習上の注意		予習は教科書、配布資料で行う。復習は授業プリントを中心に行い、実習内容を整理しておく。						
評価方法		期末試験(80%)、小テストまたは提出物(20%)による総合評価						
教科書		歯科衛生学シリーズ『歯科診療補助論』 『歯科材料』（医歯薬出版株式会社）		参考書				

44	区分	専門分野	形式	演習	後期・木曜日
授業科目名		歯科放射線学・歯科麻酔学	単位数		2
担当教員		富田 美穂子	履修年次		口腔 2年次
【授業の概要・到達目標】					
【概要】画像診断は日常の歯科診療に不可欠であるため、撮影が円滑に行われるように歯科衛生士が補助する。そのために放射線の性質、画像検査法、診断、放射線による影響、放射線治療について学ぶ。局所麻酔や全身麻酔の概念と作用機序を学ぶ。					
【到達目標】放射線の原理や使用方法を学び、疾患に対するレントゲン撮影の補助ができる。					
＊口腔外科学講座に所属し口腔外科治療をメインに臨床をしていた担当教員による授業					
【授業計画】					
1	9/25	歯科医療と放射線			
2	10/2	X線画像の形成			
3	10/16	歯科におけるX線検査①			
4	10/23	歯科におけるX線検査②			
5	10/30	口内法撮影の実際と歯科衛生士の役割			
6	11/6	パノラマX線撮影の実際と歯科衛生士の役割			
7	11/13	デンタル撮影			
8	11/20	デンタル撮影			
9	11/27	パノラマX線撮影			
10	12/4	パノラマX線撮影			
11	12/11	局所麻酔			
12	1/8	全身麻酔			
13	1/15	放射線まとめ			
14	1/22	麻酔薬まとめ			
15	1/29	後期期末試験			
16	2/5	後期試験の解説とまとめ			
学習上の注意		学習する内容が多いので、講義後は教科書とプリントを再度確認すること。			
評価方法		期末試験(90%)・レポート(10%)			
教科書・参考書		歯科衛生学シリーズ 歯科放射線(医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 顎・口腔粘膜疾患「口腔外科・歯科麻酔」(医歯薬出版)	参考書		

45	区分	専門分野	形式	実習	後期
授業科目名		臨地実習Ⅰ	単位数		9
担当教員		富田美穂子・鈴木香保利・丸山夏葵・小川磨美	履修年次		口腔 2年次
【授業の概要・到達目標】 臨床の現場で歯科衛生士の基本姿勢を学習し、歯科衛生士業務を学ぶ。 ＊歯科衛生士として歯科診療補助の経験を持つ教員および歯科医師として歯科診療に従事していた経験を持つ教員が担当					
【授業計画】 一臨地実習の目的・目標一 1. 医療人としての基本姿勢 1) 身だしなみ、姿勢、言葉使いに気をつけて行動することができる。 2) 実習施設の守秘義務を順守することができる。 3) 患者に対して共感的態度で接することができる。 4) スタッフに対して、感謝と敬意を表すことができる。 5) 実習に積極的に参加し、自ら調べ質問することができる。 2. 学習目標 1) 口腔保健を担う専門職として必要な知識を身に付ける。 2) 歯科衛生士の役割と仕事を理解する。 3) コミュニケーション能力を養う。 3. 学習内容 1) 診療に必要な器具・器材・材料を準備することができる。 2) 診療に必要な器具・器材・材料の性質・用途を述べることができる。 3) 患者への対応を適切に行うことができる。 4) 標準予防策を理解する。 5) 医療廃棄物の取り扱いができる。 6) 処置内容を説明できる。 4. 実習場所 東京都及び神奈川県内の歯科診療所					
学習上の注意		歯科予防処置・歯科保健指導・歯科診療補助を復習しておく。			
評価方法		実習先評価80%、実習レポート等20%			
教科書		参考書			

46	区分	専門分野	形式	実習	通年
授業科目名		臨地実習Ⅱ	単位数		11
担当教員		富田美穂子・鈴木香保利・丸山夏葵・小川磨美	履修年次		口腔 3年次
【授業の概要・到達目標】 口腔の専門職として、責任感、誠実性、積極性、協調性、判断力を培い、実践できる能力を養う。コメディカルの一員としての行動を身につける。 ＊ 歯科衛生士として歯科診療補助の経験を持つ教員及び歯科医師として歯科診療に従事していた経験を持つ教員が担当。					
【授業計画】 一臨地実習の目的・目標一 1. 医療人としての基本姿勢 1) 身だしなみ、姿勢、言葉使いに気をつけて行動することができる。 2) 実習施設の守秘義務を順守することができる。 3) 患者や入所者を尊重し、受容的・共感的態度で接することができる。 4) 実習先のスタッフに対して、感謝と敬意を表すことができる。 5) 実習に積極的に参加し、自ら調べ質問することができる。 2. 学習目標 1) 口腔保健を担う専門職として必要な知識を身に付ける。 2) 実習場所で働く歯科衛生士や他のスタッフの役割と仕事を理解する。 3) 保健・医療・介護・福祉の場において多種職と協働する能力を身につける。 3. 学習内容 1) 生活習慣などの情報を収集することができる。 2) 得られた情報から問題点を説明できる。 3) 口腔疾患と全身疾患の関係を説明できる。 4) 歯面清掃等の予防処置ができる。 5) 対象者に必要な口腔保健指導ができる。 6) バイタルサインが説明でき、測定できる。 7) 検査値が理解できる。 8) 患者の状態に応じた対応ができる。 9) 周術期管理について説明できる。 10) 園児の心身の発達と口腔内の状態を説明できる。 11) 園児に保健指導ができる。 12) 高齢者に対して口腔ケアプランを作成することができる。 13) 摂食・嚥下リハビリテーションについて基礎的知識を述べることができる。 14) 高齢者の全身疾患と内服薬との関係を述べることができる。 15) 対象者の状態を理解し、適切な健康教育ができる。 4. 実習場所 東京都及び神奈川県内の歯科診療所・大学病院・地域の総合病院・福祉施設					
学習上の注意		歯科予防処置・歯科保健指導・歯科診療補助を復習しておく。			
評価方法		実習先評価80%、実習レポート等20%			
教科書		参考書			

47	区分	選択必修分野				形式	演習	後期	
授業科目名		総合歯科医学演習				単位数		8	
担当教員		富田美穂子・鈴木香保利・丸山夏葵・小川磨美 富田そら・小山祐樹・和気創・富田修一				履修年次		口腔 3年次	
【授業の概要・到達目標】 これまでに学修した内容を総括すると同時に、演習を交えることにより理解を深めることを目的とする。 ＊ 歯科衛生士として歯科診療補助の経験を持つ教員及び歯科医師として歯科診療に従事していた経験を持つ教員による授業。									
【授業計画】									
1	9/25	障害者歯科学1	【鈴木】	17	10/23	歯科診療補助3	【丸山】		
2	10/2	障害者歯科学2	【鈴木】	18	10/24	歯科診療補助4	【丸山】		
3	10/6	う蝕学の基礎	【和気】	19	10/24	歯科保健指導論3	【小川】		
4	10/6	歯周病学の基礎	【和気】	20	10/24	歯科保健指導論4	【小川】		
5	10/6	歯科予防処置1	【富田そ】	21	10/27	口腔解剖学3	【和気】		
6	10/10	生理学1	【富田】	22	10/27	生化学・栄養学1	【和気】		
7	10/10	生理学2	【富田】	23	10/28	微生物1	【小山】		
8	10/16	障害者歯科学3	【鈴木】	24	10/30	栄養指導2(歯科保健指導論)	【鈴木】		
9	10/16	歯科診療補助1	【丸山】	25	10/30	歯科診療補助5	【丸山】		
10	10/17	障害者歯科学4	【鈴木】	26	10/30	疾患の概要・治療法 感染症	【富田修】		
11	10/17	歯科保健指導論1	【小川】	27	11/3	薬理学1	【富田】		
12	10/17	歯科保健指導論2	【小川】	28	11/3	薬理学2	【富田】		
13	10/20	口腔解剖学1	【和気】	29	11/3	歯科保健指導論5	【小川】		
14	10/20	口腔解剖学2	【和気】	30	11/4	微生物2	【小山】		
15	10/20	歯科予防処置2	【富田そ】	31	11/6	栄養指導3(歯科保健指導論)	【鈴木】		
16	10/23	栄養指導1(歯科保健指導論)	【鈴木】	32	11/6	歯科診療補助6	【丸山】		
学習上の注意		これまでに学んだ事項を復習しておく							
評価方法		総合期末試験、小テスト							
教科書				参考書					

47	区分	選択必修分野				形式	演習	後期	
授業科目名		総合歯科医学演習				単位数			
担当教員		富田美穂子・鈴木香保利・丸山夏葵・小川磨美 富田そら・小山祐樹・和気創・富田修一				履修年次		口腔 3年次	
【授業の概要・到達目標】									
これまでに学修した内容を総括すると同時に、演習を交えることにより理解を深めることを目的とする。 ＊ 歯科衛生士として歯科診療補助の経験を持つ教員及び歯科医師として歯科診療に従事していた経験を持つ教員による授業									
【授業計画】									
33	11/10	生化学・栄養学2	【和気】	49	11/24	放射線	【富田】		
34	11/10	生化学・栄養学3	【和気】	50	11/24	臨床検査	【富田】		
35	11/10	歯科予防処置3	【富田そ】	51	11/27	歯科診療補助論・障害者歯科 2	【小川】		
36	11/13	栄養指導4(歯科保健指導論)	【鈴木】	52	11/27	歯科診療補助11	【丸山】		
37	11/13	歯科診療補助7	【丸山】	53	11/27	疾患の概要と治療法に呼吸器疾患	【富田修】		
38	11/14	歯科診療補助8	【丸山】	54	11/28	歯科保健指導論10	【小川】		
39	11/14	歯科保健指導論6	【小川】	55	11/28	歯科診療補助論・障害者歯科 3	【小川】		
40	11/14	歯科保健指導論7	【小川】	56	12/1	口腔外科1	【富田】		
41	11/17	保存学	【富田】	57	12/1	口腔外科2	【富田】		
42	11/17	補綴学	【富田】	58	12/1	歯科予防処置5	【富田そ】		
43	11/17	歯科予防処置4	【富田そ】	59	12/8	生化学・栄養学4	【和気】		
44	11/20	歯科保健指導論8	【小川】	60	12/8	生化学・栄養学5	【和気】		
45	11/20	歯科診療補助9	【丸山】	61	12/8	歯科予防処置6	【富田そ】		
46	11/21	歯科診療補助10	【丸山】	62	12/11	歯科診療補助論・障害者歯科 4	【小川】		
47	11/21	歯科保健指導論9	【小川】	63	12/11	歯科診療補助12	【丸山】		
48	11/21	歯科診療補助論・障害者歯科 1	【小川】	64	12/11	疾患の概要と治療法 運動疾患と神経疾患	【富田修】		
学習上の注意		これまでに学んだ事項を復習しておく		65	12/18	後期期末テスト			
評価方法		総合期末試験、小テスト							
教科書				参考書					

48	区分	選択必修分野	形式	演習	前期・木曜日
授業科目名		介護技術	単位数		2
担当教員		大滝 周	履修年次		口腔 3年次
【授業の概要・到達目標】 介護とは、日常生活を安全かつ快適に営むための支援といわれている。現在、超高齢社会を迎え、口腔機能の維持・増進が必要となっている中で、歯科予防処置、歯科診療の補助や歯科保健指導を担う歯科衛生士の活躍の場はますます広がっている。そのため、安全で安楽な支援を提供するためには、その対象を理解するとともに、その対象に応じた支援が求められている。 授業では、対象の理解および、対象の安全・安楽を考えながら実践するための科学的根拠に基づいた介護の技術について学習する。					
【授業計画】					
1	4/10	対象の理解			
2	4/10	食べること／排泄すること			
3	4/24	標準予防策			
4	4/24	標準予防策			
5	5/15	高齢者模擬体験			
6	5/15	高齢者模擬体験			
7	5/22	動くこと／清潔を保持すること			
8	5/22	認知症			
9	6/5	対象の状態把握①			
10	6/5	一次救命処置			
11	6/19	対象の状態把握②			
12	6/19	動くこと／清潔を保持すること②			
13	7/3	診療の補助			
14	7/3	対象の状態把握②			
15	7/31	前期期末試験			
16	8/7	まとめ			
学習上の注意		本授業については、講義、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、技術演習を含めた形式で実施する。主体的に授業に臨みましょう！ *技術演習の予習として、指示された事前学習を行い、演習に臨む。技術演習の復習として、振り返りシートを用い、学んだこと、行動目標の達成状況を振り返る。また、授業の進捗状況に応じて、プレゼンテーション準備のために、授業時間を自宅での準備する時間に充てる場合がある。			
評価方法		評価は、①前期期末試験（本試験）（60％）、②小テスト、実技評価・グループワーク・プレゼンテーション・指示された課題および授業の態度（40％）の合計点とする。 再試験あるいは追試験の②の評価は、本試験で使用したものを採用する。 ★ 評価については、初回授業で詳細を説明する。			
教科書		感染管理ベーシックブック	参考書		

49	区分	選択必修分野	形式	講義	前期・木曜日
授業科目名		スポーツ科学	単位数		2
担当教員		又吉 啓太 ・ 元開 富士雄	履修年次		口腔 1年次
【授業の概要・到達目標】					
からだの構造や仕組みを学び、科学的な視点から身体運動を捉え、日常生活、スポーツ活動中の外傷や疾患、応急処置の理解を深める。 * 柔道整復師として接骨院で外傷治療をしていた経験を持つ担当教員と、歯科医師として歯科診療所で歯科治療に従事している担当教員による授業。					
【授業計画】					
1	4/10	運動器のしくみと機能(骨)	【又吉】		
2	4/17	運動器のしくみと機能(関節・関節運動)	【又吉】		
3	4/24	運動器のしくみと機能(上肢の筋)	【又吉】		
4	5/1	運動器のしくみと機能(下肢・体幹の筋)	【又吉】		
5	5/15	スポーツ活動中の外科的疾患1	【又吉】		
6	5/22	スポーツ活動中の外科的疾患2	【又吉】		
7	5/29	スポーツ活動中の内科的疾患1	【又吉】		
8	6/5	小テスト/スポーツ活動中の内的疾患2	【又吉】		
9	6/12	応急処置(RICE処置・救急時の対応・CPR)	【又吉】		
10	6/19	スポーツ歯科医学の概念,アスリートの口腔疾患と口腔管理	【元開】		
11	6/26	アスリートの栄養管理、スポーツ飲料と口腔疾患	【元開】		
12	7/3	全身運動と顎運動との関係,顎運動のバイオメカニクス	【元開】		
13	7/10	顎運動機能の評価,顎機能のリハビリ	【元開】		
14	7/17	スポーツ外傷と対応、マウスガードの目的と種類、マウスガードの選択、作成法	【元開】		
15	7/31	前期期末試験			
16	8/7	前期末試験解説	【又吉】【元開】		
学習上の注意		積極的な姿勢で授業に臨むこと。			
評価方法		前期末試験の点数のみで評価する。			
教科書		なし。	参考書		

50	区分	選択必修分野		形式	講義	前期・木曜日
授業科目名		臨床検査		単位数		2
担当教員		富田 美穂子・富田 修一		履修年次		口腔 2年次
【授業の概要・到達目標】 【概要】歯科衛生士として習得すべき一般検査業務の概要を理解し、歯科臨床における歯科的検査の意義と方法を学ぶ。 各臓器の異常を判断する検査項目を理解する。 【到達目標】患者の疾患を理解したうえで、適切な検査の概要を説明でき、それらの異常値を判断できる。 * 内科医として全身疾患を治療している担当教員による授業（3時間）						
【授業計画】						
1	4/10	臨床検査の種類				【富田(美)】
2	4/17	バイタルサイン				【富田(美)】
3	4/24	脈管系の検査				【富田(美)】
4	5/1	呼吸器系検査				【富田(美)】
5	5/15	血液検査(肝機能・腎機能)				【富田(美)】
6	5/22	糖尿病の検査				【富田(美)】
7	5/29	疾患の概要・治療法：糖尿病				【富田(修)】
8	6/5	感染症検査				【富田(美)】
9	6/12	免疫・代謝・内分泌疾患の検査				【富田(美)】
10	6/19	口腔領域の臨床検査				【富田(美)】
11	6/26	疾患の概要・治療法：心疾患と脳血管疾患				【富田(修)】
12	7/3	口腔領域の臨床検査				【富田(美)】
13	7/10	疾患の概要・治療法：癌と消化器血管				【富田(修)】
14	7/17	摂食嚥下障害の検査				【富田(美)】
15	7/31	前期期末試験				【富田(美)】
16	8/7	前期試験の解説とまとめ				【富田(美)】
学習上の注意		学習する内容が多いので、講義後は教科書とプリントを再度確認すること。				
評価方法		期末試験(100%)				
教科書・参考書		歯科衛生学シリーズ 臨床検査（医歯薬出版）	参考書			